

「観光教育と進路選択に
ついてのアンケート」

調査結果報告書

2014. 1

日本学生観光連盟

これからの観光教育学生会議



はじめに —調査企画の背景—

日本学生観光連盟の一事業として、「これからの観光教育学生会議」を2013年5月に企画した。「観光学の当事者である観光系学部・学科生自らが、観光教育について考え、自分たちの存在価値を見出すこと」をコンセプトに、期間限定で活動している。観光系学生へのアンケート調査と、観光学教員・業界関係者へのインタビューを重ね、取材した内容を当会議 Web サイト上で発信している。

当会議が一連の活動から得られた成果として発行するのが、この報告書だ。昨秋、観光系学部・学科に所属する大学4年生を対象に、各々の就職活動時点の意識や、今後の観光教育に期待すること等についての調査を約1か月半かけて実施した。個別の大学における同内容の調査はこれまでにないが、複数大学に渡る調査は初の試みであった。

「学生会議」の企画立ち上げは、私たち会議メンバーが各々の就職活動体験を機に感じた観光教育への疑問を、大学側に問いかけてみたいという思いに端を発している。3年間観光教育を受け、新卒採用市場に出たものの、「観光系学生にしかない強みは何か」と考えたとき、答えが出なかった。マーケティングや財務は経営学部や経済学部の学生の方が詳しいだろう。「どの分野とも繋がる幅広い学問であること」は観光学の良い面として語られるが、裏返せば「どの分野も中途半端」とも言える。観光系の企業研究も盛んであるが、JTBやJALの動向を知っていたところで観光業界に行かないならあまり意味がない。

経営学部や外国語学部にはない、観光系学部独自の視点は何か。「観光〇〇学」ではなく、「観光学」というアプローチがいつまでも始まらないのはどうなのか。観光学は、観光以外の産業にどう活かせる学問なのか。突き詰めれば、「観光学とは何か」。こ

れらはもちろん、簡単に答えが出るはずもない問いであるが、観光系学部・学科自体の存在価値が疑問視されている中、もっと議論が起こっていても良いはずだ。私たちはそう思ってこの活動を企画した。

ただし、自分たちの尺度だけで物事を評論したり、個人の偏った経験から生まれる間違った自己主張に行き着いたところで、「学生が何を偉そうに」と響感を買うだけだ。自分たちなりに観光教育への疑問は持ちつつも、ひとまずそれは押しとどめ、一步引いた立場から観光系学生一般が感じていることを集約する必要があった。それが調査企画の背景である。

回答では、思慮深い意見が様々な大学の学生から寄せられ、価値ある内容となっている。一部短絡的すぎるコメントは除かせていただいたが、基本的に私たちが選別することはせず、ほとんどそのまま掲載した。本文中には結果に基づいた私たち主催者の意見も載せているが、これはあくまで私たちの意見である。観光教育に関わる産学官の方々、アンケートに協力いただいた4年生、その他観光学の当事者である多くの観光系学生には、それぞれの立場から目を通していただければと思う。

観光系学生は、観光を学ぶ意義をどのように捉えているのか。大学での学びを、どのように自らの進路と関連づけ社会に踏み出すのか。学生の実像を表す様々な数字、言葉が、この報告書には詰まっている。本報告書が、観光教育に関わる多くの方々の目に触れ、「これからの観光教育」を考える良き資料となることを願う。

2014年1月
これからの観光教育学生会議

目次

1. 本調査について

1-1 調査目的	5
1-2 実施概要	5

2. 集計結果

2-1 回答者属性	9
2-2 Topic1「観光系学生の就職活動」結果	
(1) 卒業後の進路	9
(2) 第一志望業界 —観光業界へ「行きたくても行けない」のか「選ばない」のか—	11
(3) 企業選びにおいて専攻内容（観光学）との関連性を重視したか	13
(4) インターンシップ参加経験	16
(5) 参考にした求人情報	16
(6) 就職活動における観光系学生の強み	17
(7) 就職活動における観光系学生の悩み	18
(8) 選考において大学での専攻内容・成績を評価してほしいか	21
(9) 就職活動の結果にどの程度満足しているか	24
2-3 Topic2「観光系学部・学科での4年間」結果	
(1) 観光系学部・学科の選択理由	25
(2) 専門分野	25
(3) 在学中の国内・海外旅行経験	26
(4) 観光系学部・学科に入って良かったと思うこと	27
(5) 観光系学部・学科に対して不満に思うこと	28
(6) 4年間で面白かった講義 / (7) あったら良いと思う講義	29
(8) 自分の大学の観光系学部・学科を高校生に勧めたいと思うか	35
(9) 観光教育に対して感じること	38

3. 資料

3-1 設問全文掲載	42
3-2 調査協力大学一覧	48

1.調査について

1-1 調査目的

観光系学生の進路選択・就職活動についての意識や、4年間の観光教育に対する評価等、学生の“生の声”を集め、観光学を専攻する意義や、観光系学生の強み・存在価値を見出す。

この結果を各方面に発信し、次世代の学生たちの学びに役立つもの、「これからの観光教育」議論に貢献する資料となることを願う。

1-2 実施概要

■ 調査名

「観光教育と進路選択についてのアンケート」

■ 調査主体

日本学生観光連盟「これからの観光教育学生会議」

(観光学を専攻する学生自らが、観光系学生の存在価値を考え、観光の産学官関係者、観光学を学ぶ他の学生に向けて発信する学生会議です。)

■ 調査内容

Topic 1 「観光系学生の就職活動」

観光系学生の進路選択に対する意識、就職活動における行動実態等。

Topic 2 「観光系学部・学科での4年間」

観光学についての認識、観光教育に対する評価・要望等。

■ 調査方法

インターネット調査。当会議のウェブサイト (<http://kankokaigi.wix.com/home>) 上にて。

■ 調査対象者

国内の観光系学部・学科に所属する大学4年生(日本人)

■ 回答期間

2013年9月23日(月)～2013年10月27日(日)

■ 有効回答数

120

■ 調査体制

本調査の企画・実施・集計までの一連の作業は、すべて「これからの観光教育学生会議」メンバーの学生のみで行っています。

所属	氏名
立教大学観光学部4年	藤野 里帆
立教大学観光学部4年	諸角 智亜
東海大学観光学部4年	遠藤 優弥
東海大学観光学部4年	三堀 世奈
帝京大学経済学部4年	徳武 希和子
帝京大学経済学部4年	加藤 友里
文教大学国際学部4年	金野 奈央子

■ 周知方法

- (1) 日本学生観光連盟4年生会員へのメール依頼。
- (2) 観光系学部・学科の教員へのメールによる協力依頼。ゼミの連絡網、学科の連絡網等を通じて4年生に転送していただいた。
- (3) 会議メンバーによる自大学でのチラシ配布。

2.集計結果

表記について

- ・観光系学部・学科に所属する学生を「**観光系学生**」、それ以外の学部学科に所属する学生を「**一般学生**」と表記しています。
- ・直接的に観光事業に関わる企業を「**観光関連企業**」、それ以外の業界の企業を「**その他企業**」と表記しています。

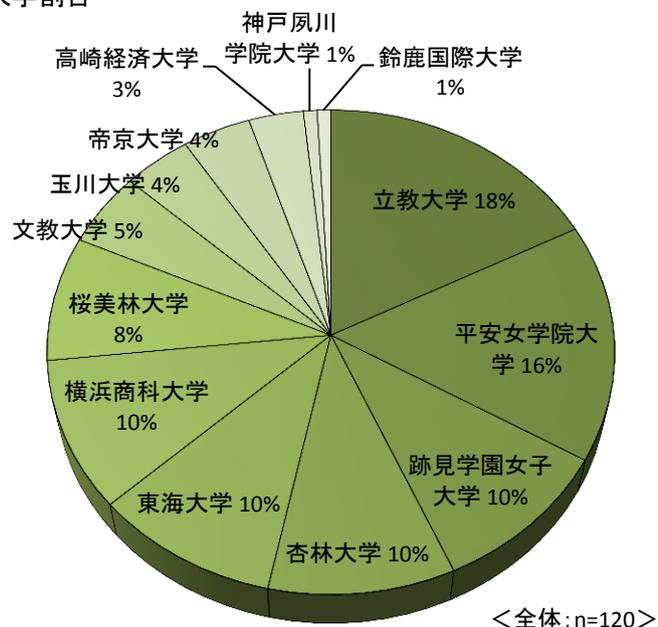
2-1 回答者属性

(1) 大学別構成

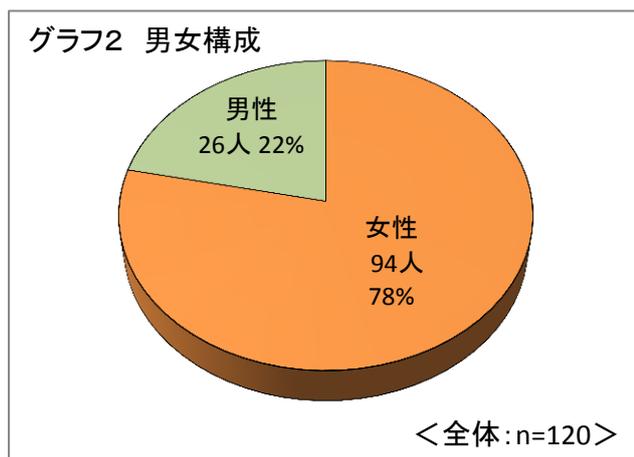
跡見学園女子大学	12人
桜美林大学	10人
杏林大学	12人
神戸夙川学院	1人
鈴鹿国際大学	1人
高崎経済大学	4人
玉川大学	5人
帝京大学	5人
東海大学	12人
文教大学	6人
平安女学院大学	19人
横浜商科大学	12人
立教大学	21人
合計	120人

(大学名五十音順)

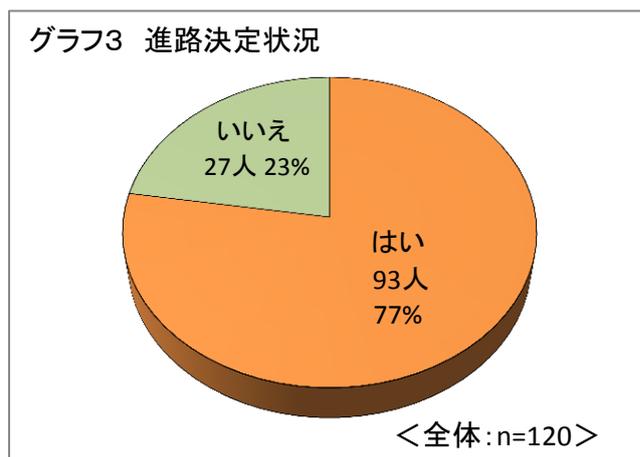
グラフ1 大学割合



(2) 男女構成



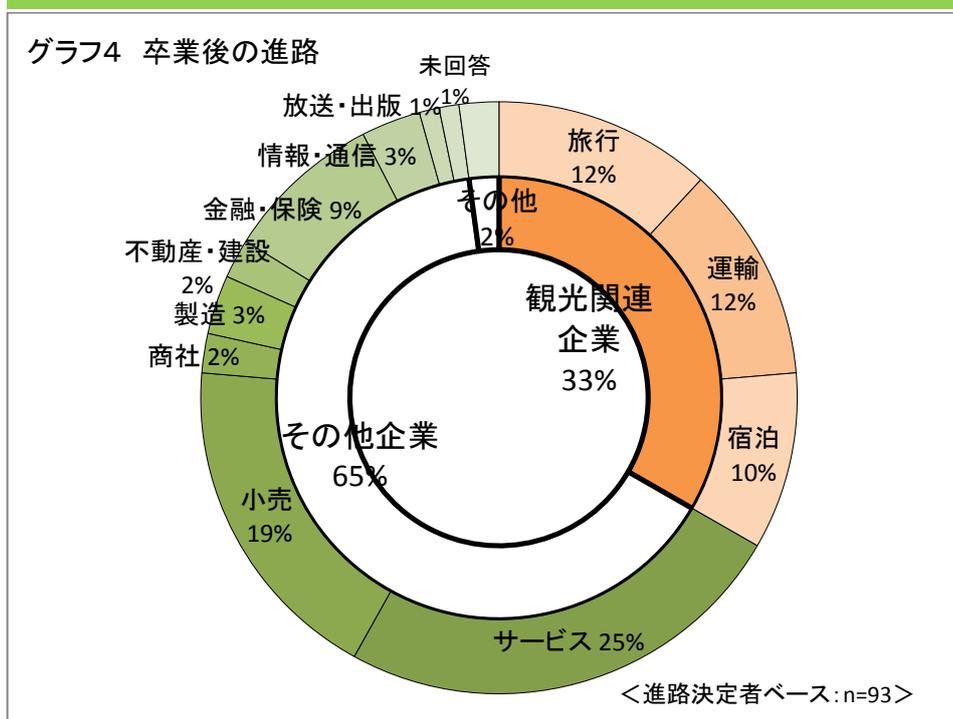
(3) 卒業後の進路が決まっているか



(※2013年10月時点)

2-2 Topic1 「観光系学生の就職活動」結果

(1) 卒業後の進路



具体的人数

分類	合計	業種	人数
観光関連企業	31	旅行	11
		運輸	11
		宿泊	9
		サービス(内訳)	23
その他企業	60	ブライダル*	8
		人材	3
		飲食	2
		物流	2
		医療・福祉・介護	1
		美容	1
		警備	1
		レンタリース	1
		インストラクター	1
		ペット	1
		冠婚葬祭	1
		小売	18
		商社	2
		製造	3
		不動産・建設	2
		金融・保険	8
		情報・通信	3
放送・出版	1		
未回答	1		
その他	2	その他(進学等)	2
	93		93

卒業後の進路が決まっている回答者に、具体的業種を尋ねた。進路決定者のうち98%が民間企業に就職予定。内訳は、旅行・運輸・宿泊のいわゆる「観光関連企業」が33%、「その他企業」が65%であった。その他企業の中でもサービス業、小売業が多くを占めていることが特徴的。その他2%は、専門学校への進学等。「公務員」の選択肢も設けたが、該当者はいなかった。

※ブライダル業界については「観光関連企業」に分類されることが多いが、今回は「その他企業」に含めた。「観光業界」は線引きが難しく、ブライダル業界が「ホスピタリティ産業」に含まれることは明らかなのものの、「観光業界」に入るかどうかは曖昧だ。ブライダル業界まで含めしまうと「では関連するその他の業界も観光関連企業では(ホテル開発をする不動産業、土産品を作る製造業...)などと切りが無いため、アンケート上「観光関連企業」と呼ぶものは「狭義での観光業界、いわゆる旅行・運輸・宿泊の3者に限定した。

(2) 第一志望業界 —観光業界へ「行きたくても行けない」のか「選ばない」のか—

「観光業界へ行く観光系学生はわずか1割」「観光系大学看板倒れ」—観光系学部・学科は、学生の就職に関して時にこのようなセンセーショナルな報道をされてしまっている。しかし、観光系学生が観光業界へ「行きたくても行けなかった」のか【自ら選ばなかった】のか、その内訳をささずここうした批判をするのは、少々的外れと言えないか。

次頁「その他企業就職者の回答」には、その実態を表す数字が出ている。

その他企業に就職する60名の学生のうち、【その他企業が第一志望だった】と回答した学生は合計40名であるのに対し、【元々は観光関連企業が第一志望だった】と回答した学生は16名であった。割合でいうと7…3。

この結果から、観光業界へ進まない観光系学生の7割以上は、【自ら選んでいない】ということが明らかになった。もちろんサンプル数として必ずしも十分とは言えないが、これだけ差が開いているため、回答数が増えたとしても結果が大きく逆転することはないと思われる。

観光関連企業内定者（31名）の回答

●観光関連企業は第一志望だったか（単一回答）

	人数	割合
第一志望だった、かつ、その他企業は一社も受けなかった	4人	13%
第一志望だった、ただし、その他企業も受けていた	22人	71%
第一志望ではなかった、しかし、その他の企業の選考に通らなかったため観光関連企業へ行くことになった	5人	16%
合計	31人	100%

<観光関連企業就職予定者ベース：n=31>

●観光関連企業を第一志望にした理由（複数回答）

	人数	割合
観光関連企業でやりたい仕事があったから	25人	96%
観光系学部・学科のため志望動機を明確に言えるから	9人	35%
観光関連企業のインターンシップに参加し、志望度が高まったから	3人	12%
観光関連企業でのアルバイト経験があるから	2人	8%
その他	0人	0%

<観光関連企業第一志望者ベース：n=26>

●「観光関連企業でやりたい仕事」の具体的内容（自由回答）

旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行を担当したいと思ったから。(男性) ・教育旅行に興味があったため。(女性) ・旅行業界で、団体営業に携わり添乗員として活躍したいと幼い頃から思っていた。(女性) ・旅行商品の造成、フットボール・ツーリズムの普及。(男性) ・旅行会社で地域振興に携わりたかった。(男性) ・旅行会社でインバウンドに携わりたかったから。(女性)
航空	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行機や空港が大好きだったため航空会社のインターンシップに参加し、グランドスタッフの業務に大変やりがいを感じた。内定を頂いた企業は色々な種類の仕事があるので、オールマイティーに経験してみたい。(男性)

空港	・空港の民営化議論が活発になってきていることを講義等で知り、これからは面白い環境だと思った。鉄道における「駅ナカ」が流行っているように、空港という空間の有効活用や、日本らしい空港づくりを考えてみたいと思った。(女性)
鉄道	・鉄道会社で、沿線観光のまちづくりや観光再生に携わりたいと思った。(女性)
バス	・旅行や移動を通した、地域振興など。(女性)
ホテル	・ホテルでフロントに立ちお客様に接したいと思った。(女性) ・接客を極めたいと思った。(女性) ・ゼミで見学したホテルで学んだホスピタリティを活かせると思った。(女性)

その他企業内定者（60名）の回答

●その他企業は第一志望だったか（単一回答）

	人数	割合
第一志望だった、かつ、観光関連企業は一社も受けなかった	19人	34%
第一志望だった、ただし、観光関連企業も受けていた	21人	37%
第一志望ではなかった、しかし、観光関連企業の選考に通らなかったためその他企業へ行くことになった	16人	29%
その他（第一志望は決めていなかった、など）	2人	3%
未回答	2人	3%
合計	60人	100%

「その他企業が第一志望だった」計 **71%**

観光業界にマイナスイメージがあるという回答よりも、「自分の興味を大切にしたら結果その他企業へ就職することになった」、というポジティブな回答が多かった。

<その他企業就職予定者ベース：n=60>

●観光関連企業を第一志望にしなかった理由（複数回答）

	理由	人数
1位	いろいろな企業を知るうちに、観光関連以外の仕事に興味移ったから	18人
2位	観光は、これからも消費者（客）として楽しみたいから	14人
3位	観光関連企業は、労働時間が長いイメージがあるから	9人
4位	観光関連企業は、給与水準が低いイメージがあるから	7人
5位	その他企業にも、観光学は活かせると思ったから	6人
6位	観光関連業界を目指して観光系学部・学科に入学したわけではないから	5人
7位	観光関連企業の、離職率が気になるから	3人
8位	観光関連企業でインターンを経験し、自分には向いてないと思ったから	3人

<その他企業第一志望者ベース：n=40>

●「その他企業にも観光学は活かせると思った」の具体的内容（自由回答）

金融・保険	・ホスピタリティなサービス。(女性) ・金融業界でも地域に密着したまちづくりの役にたてると思ったから。(女性) ・人と関わらない仕事はないから。(女性)
小売	・観光学で学んだことは接客業でも十分活かせる学問だと思った。(女性)
ブライダル	・日本庭園を所有する結婚式場で、婚礼のみならず、観光として誘致する活動をしているから。(男性)

(3) 企業選びにおいて専攻内容（観光学）との関連性を重視したか

観光系学生は、企業選びにおいて、どの程度専攻内容との関わりを重視しているのだろうか。回答者のうち民間企業に就職が決まっている学生に、それぞれの就職活動を振り返ってもらった。結果は下図の通り、「重視した」「重視しなかった」がほぼ半数ずつであった。

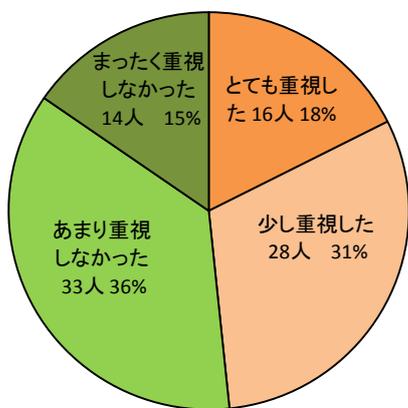
自由回答では「重視した理由」「重視しなかった理由」も答えてもらっている。

「重視した理由」では、「大学での学びを社会に出て活かしたい」というポジティブな回答が最も多く上がった。一方で、「エントリーシートを書きやすい」「面接官に理解されやすい」といった選考上の優位性を上げた学生もいた。

反対に、「重視しなかった理由」では、「学業と就職は別に考えている」「自分のやりたいことを一番に考えた」など、大学での学びとその後

の進路を同一線上に考えない学生も多いことが見てとれる。また、「観光系学部・学科で学んだことも他業界でも活かせる」との回答も典型的であった。中でも「ホスピタリティ」についてのコメントは多く、接客業全般においてアピールになり得るとの回答が、小売業界を中心にサービスマス業への就職予定者から複数寄せられた。

グラフ5 専攻内容との関連性を重視したか



<民間企業就職予定者ベース:n=91>

<とても重視した / 少し重視した>理由

観光関連企業内定者の回答

大学での学びを社会に出て活かしたいから

- ・一番勉強してきたことが社会でも生かせるということをアピールしたかったから。(女性・旅行)
- ・高校生の時から観光を学びたくて入ったため、将来も観光に携わる仕事につきたかった。(女性・航空)
- ・この業界に興味を持ったきっかけが大学の講義だったので、重視していたと思う。(男・航空)
- ・観光の事しか勉強してこなかった。大学での勉強を無駄にしなくなかった。(女性・空港)
- ・大学で学んだことを直接活かしたいと思ったから。(女性・旅行)
- ・興味があって学んできたことを活かして将来も働きたいと思っていたため。(女性・旅行)
- ・ホスピタリティ・マネジメントをテーマに研究をしていたため、志望していたサービス業の面接では研究内容を中心に話しました。(女性・鉄道)
- ・大学で学んだ知識を就職しても活かしたかったから。(女性・ホテル)
- ・学んだ事を社会に出てから活かしたいと考えたから。(女性・旅館)

観光関連企業に就職したくて観光系学部・学科に入ったから

- ・観光業への就職を希望して大学を選択したため、選考内容との関連性を重視した。(女性・ホテル)
- ・観光系の就職をしたくて、観光系学部・学科に入ったから。(男性・ホテル)
- ・観光学科に入ったのは、仕事が観光中心の職業に就きたいと思ったから、重視しつつ、選んでいきました。(女性・旅館)

講義で聞いた内容を企業選びの参考にしたから
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で聞く内容にどんどん興味がわいた。(女性・ホテル) ・授業で聞いた企業など受けたため(女性・ホテル)
筋が通るから、選考を通過しやすいから
<ul style="list-style-type: none"> ・面接で「観光学科では何を学ぶのか」について聞かれることが多く、観光産業以外の企業だと、「なぜ勉強してきたことと全く関係のない弊社を受けているのか」という質問を度々受けた。その時にやはり観光系の企業だと面接官も興味・関心を抱いてくれ、私自身も観光の知識があるため具体的に答えることができたため。(女性・航空) ・ESや志望動機が答えやすいから。(男性・旅行)

その他企業内定者の回答

その他企業へ行くが、元々は観光関連企業を志望していたから
<ul style="list-style-type: none"> ・もともと第一志望が観光業界で、ほかの学生と差をつけるため。(女性・警備) ・もともと観光関係の職業に就くことを目標として観光学部に入学したため。(女性・美容)
大学での学びを社会に出て活かしたいから
<ul style="list-style-type: none"> ・今までやってきたことを就職活動で活かしたかったから。(女性・ブライダル) ・大学でホスピタリティやおもてなしについて学んできたことを、社会に出て活かしたいと思ったからです。(女性・ブライダル) ・他の学部と違い、実践的な事を学べていると考えていたので。(男・レンタリース) ・観光関連の会社に就職希望で、観光系の学部に入学したのでその目標を達成したいため。また、学んできた専門的な知識等を少しでも活かしていくことができると思ったため。(女性・小売) ・自分が今まで習ってきたことを就職活動に活かしたいと思ったから。(女性・飲食) ・観光学部で勉強したおかげで、地域と一体となり、地域を大切に、地域の発展に貢献する仕事をしたいと考えたからです。(女性・金融/保険) ・大学で観光業界についてももっと関わってみたいと感じたし、学んだことを少しでも生かせるような職場で仕事をしたいと思った。しかし就活は観光業界のみに絞らず、幅広い分野を見たいと思った。(女性・小売)
観光の学びは他の業界にも繋がっているから
<ul style="list-style-type: none"> ・ITの仕事だが、観光にも関わる仕事ができる。(男性・情報/通信) ・観光は何の分野にも繋がっていると思うから。(女性・小売) ・「専攻内容」というかは微妙ですが… 私は「小売業界」の中でも「オフィス通販」の会社に内定をいただきましたがそのときの理由付けは以下のように行っておりました： 「観光学部」というのは、単に「観光」そのものを学んでいるというわけではない。観光というある1つの事象について、様々な学問を用いて・応用して多角的に見る学問である。オフィス通販という、あらゆる業種へリーチしている会社には、あらゆる業界・企業のことを知り、共感し、多角的に視野を広げておく必要がある。したがって、「観光学部」という場で学んだ経験はオフィス通販業界で働くのに意義がある。 つまり、観光学部で学んだ具体的な内容についてというよりは、「観光学」という体系がどういう意味をもたらすのか…ということに重きを置いていました。したがって、専攻内容との関連性を重視したといえば重視したし、全く無視していたといえば無視していたことになると思います。 ただ、個人的には「観光学」で学んだことと、自分が目指す方向は(大枠として)近いものだったと思うので、「少し重視した」とさせていただきました。(女性・小売)
観光の学びは他の業界にも繋がっているから (ホスピタリティに関して)
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んできた接客業におけるホスピタリティについての知識や実践力を生かしたいと考えていたから。(女性・小売) ・ホスピタリティを活かした仕事がしたかったから (男性・小売)

<あまり重視しなかった / まったく重視しなかった>理由

観光(学)に興味がない/なくなった、向いていないと思った

- ・観光学に興味が悪くなったため。(女性・人材)
- ・観光業界にあまり興味がなかったから(女性・金融/保険)
- ・必ずしも観光に関わりたいたいという思いがなかったため。(女性・金融/保険)
- ・特に「絶対観光業の仕事がしたい」と思っはなかったから。(女性・小売)
- ・観光学に進む気がなかったから。(女性・小売)
- ・観光を学んでいく中で、就職と考えた中で自身には向いてないと思った為。(女性・小売)
- ・専攻内容を勉強した上でそれらを活かして仕事をしたいと思えなかったため。(女性・人材)
- ・入学前と後で自分のやりたいことが変わったため。(女性・人材)

観光はこれからも消費者(客)として楽しみたい

- ・自分の好きなことを仕事にするのが幸せだと思うが、好きなことを仕事にすることで、旅行が嫌いになりそうだったから。(女性・物流)
- ・観光には興味はありましたが、それを仕事に活かしたいとは思いませんでした。趣味程度で楽しみたいからです。(女性・小売)
- ・旅行を仕事にはしたくないと思ったから。(女性・金融/保険)

観光の学びはどの業界にも繋がっているから

- ・おもてなしの心はどこの企業でも必要だと思った(女性・製造)
- ・観光学部での専攻内容は、どのような企業にもつづしがきくようなものだったので関連性は重視しませんでした。また、先輩方の就職先も特に観光系中心というわけではありませんでした。(女性・小売)
- ・観光学を通してビジネスを学ぶことができたから(女性・ブライダル)
- ・自分が学んでいたことは、サービス業全般にも関わることだったため、さまざまな業界を見ていた。(女性・ブライダル)
- ・観光以外のお仕事にも興味を持っていたためです。また、観光以外のお仕事でも観光について学んだことは、何らかの形で活かせると思ったからです。(女性・鉄道)

学業と就職は別に考えている、自分のやりたいことを職にしようと思った

- ・観光学について学んでいたのは趣味だったから、仕事にしたいものとは違うから(女性・ホテル)
- ・自分は自分だから。(女性・鉄道)
- ・学業と就職は別だと考えたから(女性・金融/保険)
- ・幼い頃から医療関係の仕事に携わりたかったため、特に観光業界については考えていなかった。(女性・医療/福祉/介護)
- ・これまでの自分を省みてやりたいことを考えたので。(女性・放送/出版)
- ・自分の興味があるところなら関係なく受けようと思ったから(女性・小売)
- ・自分が受けたい会社を受けた(女性・ブライダル)
- ・自分のやりたいことを職にしたかったから。(女性・ブライダル)
- ・就職のために観光学を専攻したわけではないから。(女性・情報/通信)
- ・最終的に自分が入りたかった企業は観光関連ではなかったから。しかし観光関連の勉強をしていたおかげで役に立つことは少なからずあった。(男性・小売)

専攻内容より人物を見て判断してもらえるから

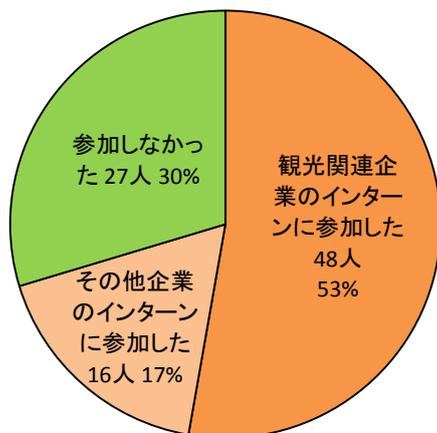
- ・どの学部学科にいても特殊職種でない限り人を見て判断してくれる為、関係ないと思ったしその通りだった。(女性・情報/通信)

その他

- ・Uターン就職を最優先としたため(女性・鉄道)
- ・学んだ内容がそのまま社会で活かせるか疑問だったから。(女性・小売)

(4) インターンシップ参加経験 (単一回答)

グラフ6 インターンシップ参加経験



<民間企業就職予定者ベース:n=91>

インターンシップ参加経験について尋ねた。民間企業に就職が決まっている学生のうち70%は、何らかの形でインターンシップに参加したことがあると答えている。また、参加経験のある学生のうち75%は観光関連企業に、25%はその他企業のインターンに参加したとの結果である。

(5) 参考にした求人情報ランキング (複数回答)

順位	求人情報	人数	割合
1位	リクナビ	84人	92%
2位	マイナビ	82人	90%
3位	日経就職ナビ	52人	57%
4位	en japan	25人	27%
5位	学情ナビ	19人	21%
6位	ダイヤモンド就職ナビ	10人	11%
7位	ゼミの教授の紹介	7人	7%
9位	ハローワーク	4人	4%
10位	キャリアセンターに届く求人	4人	4%
11位	親類の紹介	1人	1%

参考にした求人情報について尋ねた。結果は、観光系学生だけに特徴的な数字は見られず、就活生全般に共通の順位がそのまま現れたと言える。観光系学部・学科には民間企業出身の教員が多いが、「ゼミの教授の紹介」は7%だった。また、「キャリアセンターに届く求人」もわずか4%であった。観光系学部・学科を置く大学であれば、キャリアセンターにもそれに関連した求人情報が届いている可能性があるが、参照している学生は少ないようだ。

(6) 就職活動における観光系学生の強み

大学で観光学を専攻した学生の強みとは何だろうか。当会議最大のテーマであるこの問を、回答者につけてみた。私たちが事前に予測した選択肢について「そう思う／思わない」で返答してもらい、また、それぞれが観光系学生として就職活動でPRしていたことを自由回答で教えてもらった。

結果、観光関連企業の選考においては7割以上の学生が「業界への熱意」を、また、全ての業界の選考において、同じく7割以上の学生が「ホスピタリティの手法を学んできたこと」を選択し、最も共感を得た選択肢であった。

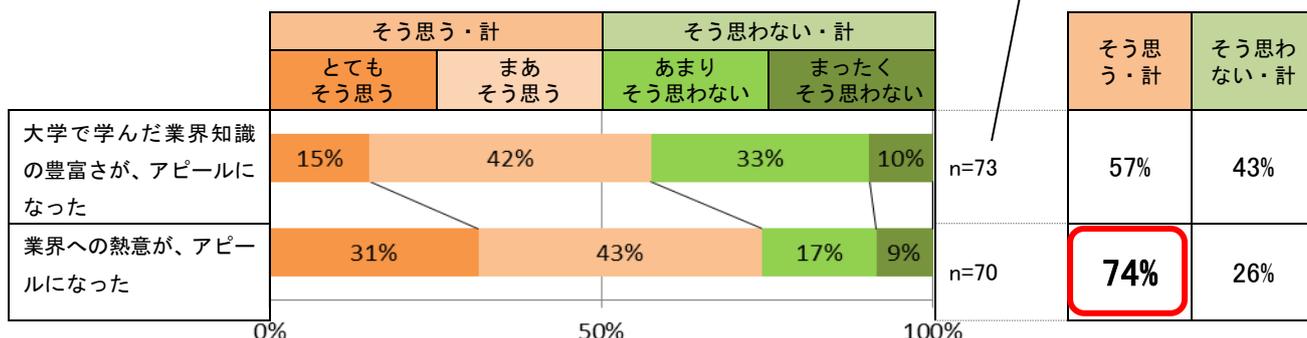
観光関連企業においては、観光の知識そのものよりも、「4年間勉強した上でどうしてもこの業界に入りたい」という強い思いが面接官に響くのだろう。「熱意」も、就職活動においては立派な強みとなる。またホスピタリティについては、観光業界以外にも様々な業種で必要とされるものであり、「それを専門に学んだ観光系学生は強い」との認識を学生自身が持っていることがうかがえる。

選考において、観光学を専攻した学生として強みに感じたこと

グラフ

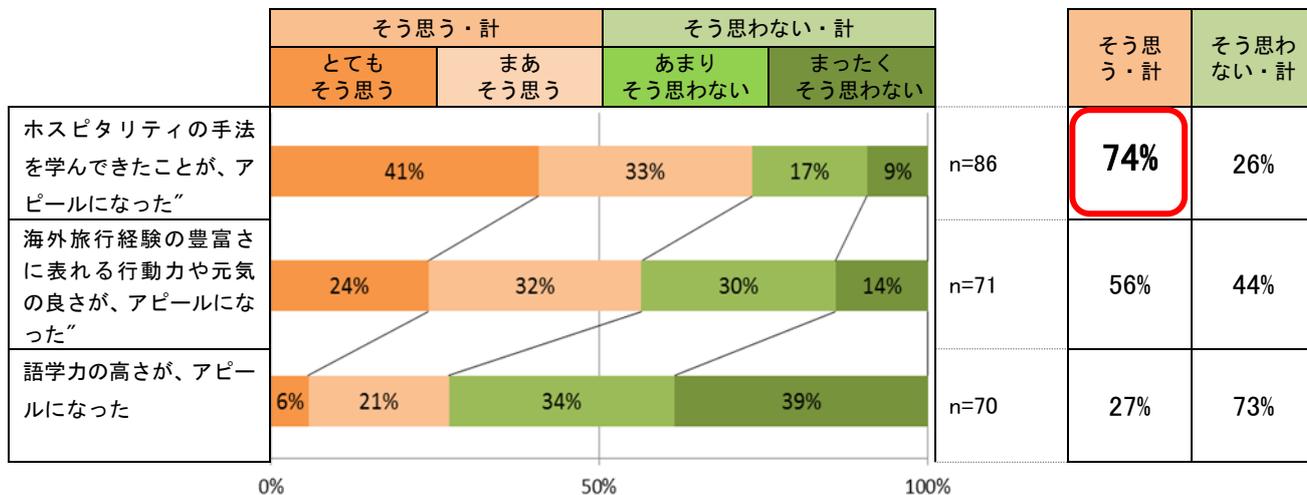
●観光関連企業の選考において

※選択肢の経験がない場合は「該当なし」を選択してもらっているため、母数がすべて異なっている。



グラフ8

●すべての業界の選考において



●その他、観光系学生としてアピールしていたこと（自由回答）

ホスピタリティ、対人関係能力
<ul style="list-style-type: none"> ・人とのコミュニケーションに長けている。(男性・旅行) ・薄利多売の中でいかに差をつけていくかという点において、大学で学んだ知識とアルバイト経験を踏まえてホスピタリティの重要性、そしてそれを有していることをアピールした。(男性・旅行) ・観光系の業種では、自分の能力よりも人間性が重視されると感じたため、笑顔で元気に面接に臨むことを常に意識していました。(女性・バス) ・ゼミ活動において積極的にフィールドワークに出かけ、実際に体感することでおもてなしに関心をおいていたということ。(女性・航空) ・ホスピタリティを学ぶ学生として、笑顔や身だしなみ、立ち居振る舞いには気遣っていました。印象は大事だと思います。(女性・鉄道) ・ホスピタリティ精神を大学で学び、アルバイトで実践してきたため、即戦力になれるとアピールした。(女性・小売)
観光学の知見
<ul style="list-style-type: none"> ・観光学と言うと旅行斡旋やホテルマンを想像されがちだった。しかし、観光学で学んだのは、そこにある魅力的な資源を活用して多くの人を動かすということだとアピールするようにしていた。(女性・小売) ・観光についての学習は、観光のみならず様々な業種に応用できるものが多いです。私は接客業を主な仕事とする企業を多く受けていたので、自分が学んできた観光学を実際の接客の場でどう活かしていくかをアピールしました。(女性・小売)
フィールドワークでつけた人間力
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミの合宿で、フィールドワークを多く経験してきたので、積極性があることや異文化に理解があることはアピールした。(女性・旅行)
地域活性化に携わった経験
<ul style="list-style-type: none"> ・大学や地域の方、行政と連携して大学のある地域の活性化について学び活動したこと。(女性・旅行)

(7) 就職活動における観光系学生の悩み

(6)の対になる設問として、(7)では「観光系学生だからこそ就職活動で悩んだこと」を聞いてみた。

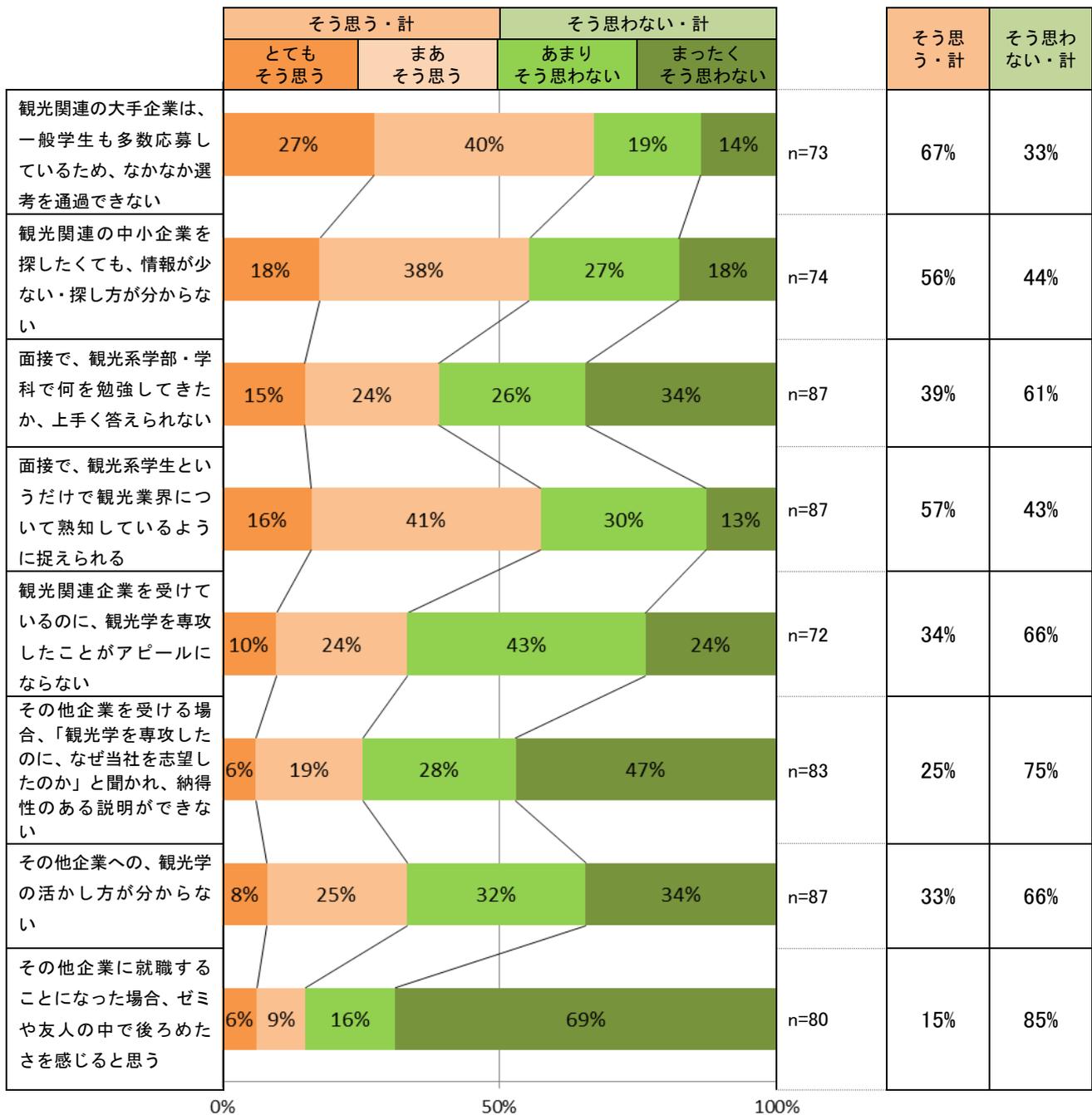
最も多くの回答者の共感を得たのは、「観光関連の大手企業は、一般学生も多数応募しているため、なかなか選考を通過できない」であった。

観光系学部・学科では大手有名企業出身の教授やゲストスピーカーの講義を聞く機会が豊富にあり、それが学生の進路観に少なからず影響を与えていることは明らかだ。しかし、いざ就職活動を迎えると、そのような名の知れた企業はとても狭き門であることに痛感する。観光業界のリーダー企業は一般学生にとって馴染み深い企業であり、応募は何万を超える領域だ。講義等を聞く中で目標とする企業ができてそこに入れる確率は決して高くない。この選択肢に多くの票が集まったのは納得できる。

反対に、用意した選択肢の中で私たちの予想に反してそ

れほど共感を得なかったのは、「その他企業を受ける場合、『観光学を専攻したのに、なぜ当社を志望したのか』と聞かれ、納得性のある説明ができない」「その他企業への、観光学の活かし方が分からない」の二つだ。裏返せば、その他業界の面接においても、自分なりにその業界・企業と観光の共通点を見出し、筋を通せる学生が多い、ということだと考えられる。「観光の学びはどの業界とも繋がっている」というコメントもアンケートを通して多数上がっており、進路選択において観光系学生は観光業界に限らず様々な業界を見据えていることがうかがえる。

グラフ9 就職活動で感じた悩み



●観光系学生だからこそ就職活動で悩んだこと（自由回答）

社会的に観光学の認知度が低い、その他企業で話が通じない

- ・企業側の観光学という学問自体の認識が薄い。観光業界の企業に行けば観光業についてどこまで知っているのか試されるような質問を聞かれ、観光業界以外の企業に行けば志願度が低いように思われる。就活をするうえでやりにくい学部だと感じた。（女性・小売）
- ・観光学とは何か、というのを聞かれた時、エコツーリズムや、ホスピタリティの話をして、通じない時がありました。（女性・旅館）
- ・なぜ観光学部なのに、うちを受けたのかという質問は、苦勞した。観光学部の知名度は低いため、真剣に話を聞いてない。（女性・物流）

- ・その他企業に魅力を感じ、自分の学んだ観光学はオンリーワンの視点でその企業に活かせると思ったが、相手からは「旅行業界に行けばいいのに」の一点張りで、自分の熱意は思うように伝えられなかった。(女性・旅行)
- ・旅行会社を受けた際、「民間企業の意義とは何か」について聞かれ、私の返答に対しさらに深く聞かれ、上手く答えられなかった。観光系の企業はESが通るのに、その他企業はなかなかESが通らず悩んだ。さらに、アパレル企業の最終面接で「他企業で選考が進んでいる所はあるか」と聞かれ、航空会社を挙げた際に、「そこから内定出たらもちろんそちらに行くよね？」と断定的な質問をされたことがあった。(女性・航空)
- ・観光を学んでいたのになぜ他の業種を受けるのかということがよく面接で聞かれ、最初は困りました。自分がどうしてその企業を受けようと思ったのか、また、大学での勉強をどのように活かしていくつもりなのかを明確にして答えるようにすればほとんどの面接官がその質問に対しては納得してくれたようでした。(女性・小売)

観光業界について熟知していると思われる

- ・観光業の現状がどうなのか、具体的な数字を用いて好転しているのか、あるいは逆なのかを聞かれて困った。観光業を受けていたときに観光学を学んでいるとセミプロ扱いされ、新鮮味がないということや、扱いにくい、ということを遠回しに言われ悩んだことがある。(女性・旅行)
- ・最終面接で、「日本の観光振興のために必要なことは何だと思う？」と聞かれ、質問が大きくて困った。その場でなんとか答えたが、観光学部なら当然そういうことを考えているだろう、という風に見られるのだなと感じた。(女性・空港)

観光関連の中小企業が探しづらい

- ・観光関連の中小企業は探しづらかった。キャリアセンターに届く中小旅行会社の求人はたまにあったが、それでも見かけたのは2～3社だった。旅行会社は何干とあるというが、どこにどんな会社があるのか、調べ方が分からなかった。キャリアセンターの人は学部生より観光業界のことを知らなかったりするため、もっと業界に近い観光学部自身、もしくは業界団体等に「こういう会社もありますよ」と紹介してもらえればと思った。(女性・空港)

旅行を仕事にするのはどうなのか悩む

- ・趣味としての旅行業は大好きだが、旅行業を仕事としてするのはどうなのか。と悩んだことがあった。(女性・ブライダル)

その他

- ・遊んでいると思われがち。(女性・金融保険)
- ・観光系といっても仕事につくのは僅かなため、「観光学部」という表現は変えると良いのではないか。たとえば「サービス学部」など。サービス業に勤める学生が多いと考えられる観光学部。サービス学部のがわかりやすいと思われる。(男性・不動産建設)
- ・「何で観光学部に入ろうと思ったの」という質問に困りました。(女性・情報/通信)
- ・観光計画について学んでいましたが、観光について学んだことをすぐに活かせる就職先は、思ったよりも少ないと感じました。(女性・鉄道)

(8) 選考において大学での専攻内容・成績を評価してほしいか

採用試験において大学での専攻内容・成績を評価してほしいかを尋ねてみた。

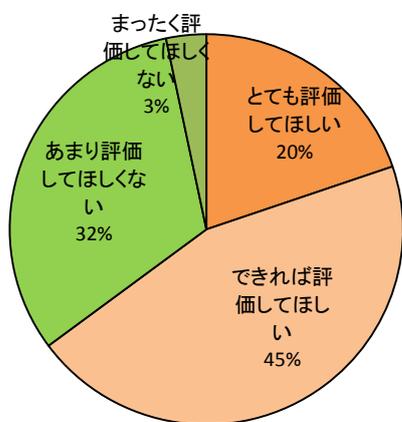
結果「評価してほしい」(計65%)が「評価してほしくない」(計34%)を大きく上回った。

「評価してほしい」の理由としては、単純に「成績が良いから」「頑張ったから」という回答もあったが、「学生時代頑張ったことで勉強のアピールをするより、他の経験(留学やボランティアなど)を述べたほうが良いという風潮に疑問を感じる(旅行)」「選考時だけで判断せず、日頃から取り組んでいることを選考内容や

成績を見て判断してほしい(ブライダル)」「何のために高等教育に進んだのか、本末転倒(旅行)」といった 大学での専攻内容を必ずしも重視しない採用制度に疑問を持つ声が寄せられた。

一方「評価してほしくない」の理由として多かったのは、「専攻・成績より人物の方が大事だから」。「何を学んだか、よりも自分がどう考え行動したのが重要(人材)」、「最終的に人を見て判断するのは当たり前(不動産・建設)」など、人物重視の採用制度を肯定する意見も多く上がっている。

グラフ10 専攻・成績を評価してほしいか



<民間企業内定者ベース:n=91>

<とても評価してほしい / できれば評価してほしい>理由

大学での学びは立派な成果である

- ・ 4年間の学びは立派な付加価値 (女性・ブライダル)
- ・ 4年間の努力が安易に考えられているように感じる (男性・レンタリース)
- ・ 大学時代の取り組みは、社会に出ても活かされるものであり、評価されるべきだから (女性・旅行)
- ・ 大学でもそれなりに成果は出してきたので (女性・ホテル)
- ・ 成績の維持・向上に努めていたから。(女性・小売)
- ・ 折角大学で勉強してきたのだから評価をしてほしい (女性・ホテル)
- ・ せっかく4年間頑張っている成績を収めてきたのにそれが評価の対象にならないのは残念 (女性・ペット)
- ・ 大学での勉強もアピールできる程度に頑張ってきたから。(女性・物流)
- ・ 頑張ってきたことだと思うので、出来れば評価してもらいたい。(男性・航空)
- ・ 積極的に授業に参加している姿勢も評価してほしい。(男性・旅行)
- ・ 4年間の大学生活を通して培ってきたものを就活に活かしたいから。(女性・旅行)
- ・ 大学での成績も努力している結果なので、その点も少しだけでも汲んでほしいから (男性・旅行)

何のための高等教育が分からなくなる

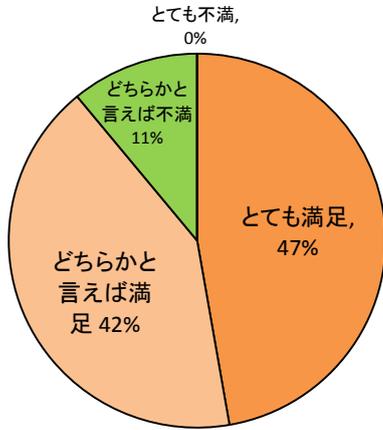
<ul style="list-style-type: none"> ・今の日本の企業は大学の成績とかあまり参考しませんが、そうなると大学で何を勉強したのか、なぜ大学に通うかがわからなくなる。(男性・IT) ・就職活動のために大学の勉強を頑張るわけではないが、学生時代頑張ったことで勉学のアピールをするより、他の経験(留学やボランティアなど)を述べたほうが良いという風潮には疑問を感じるため。何のために高等教育に進んだのか、本末転倒ではないかと感じるため。(女性・旅行) ・せっかく4年間も学んできたのに、何も評価されないのはなんだかもったいない気がする。学んだ事への評価をされると自分への自信にもつながるから。(女性・小売)
<p>専攻内容・成績は客観的な判断材料になる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動やアルバイトなど学生時代に力を注いだことは多くあると思うが、そういうことは口でなんとでもいえるため評価として残る成績なども重視してもらいたい(男性・製造) ・選考時だけで判断するのではなく、日頃から真面目に取り組んでいるところを選考内容や成績等を見て判断してほしいため。(女性・ブライダル) ・SPIや筆記テストだけでなく、その学生が4年間何を勉強し、何を身に着けたかを評価してほしいです。(女性・不動産/建設)
<p>大学名より何を勉強してきたかで判断してほしい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社等観光関連企業に就職したいために観光学部へ進んだのに、就活では結局学歴ばかりを見られて、頭の良い大学の学生ばかり選ばれている。大手旅行会社等は受験者に、観光学以外を専攻している学生がとても多いから特に「観光学を専攻していたところで大して意味がない」と感じた。(男性・旅館) ・個人の学力を大学名だけで判断されてしまう場合もまだ多くあるからです。就職活動中、それまでの大学生活の中でどれほど勉学と向き合い、努力してきたかをもっと企業側にわかってもらいたいと思ったこともありました。(女性・小売)
<p>評価項目に入れたほうが日本の大学生のレベルが上がる</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・大学での成績を評価されるようになれば、ただ単位をとるためだけに学校に行くということがなくなり、日本の学生の学力が今より向上すると思うから。(女性・旅行) ・選考では大学の成績は考慮されないと分かっているから、学生も勉強しなくなるのだと思う。勉強への動機を学生に芽生えさせるためにも、また「人間的な魅力」とか主観による抽象的な判断基準だけではなく、客観的判断材料としても、大学での勉強内容・成績を考慮すべきではないかと思う。(女性・空港) ・自分らしさが評価されれば良いと思いますが、大学での専攻内容や成績を評価していただけるのなら尚良いと思います。また、熱の入った学生も増えると思います。(女性・鉄道)
<p>その他：設問は偏見ではないか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・成績をesに記入する企業がほとんどだった上に、面接を受けた所ではほぼ成績はどうですか？という質問があった。この質問は偏見ではないでしょうか。(女性・金融/保険) ←ツッコミありがとうございます。 ・やっぱり学生の本分は勉学ですから、これについて評価がないのはやはり納得がいきません。…とはいえ、「成績を評価する企業は少数」というのは、建前なのではないかという気もしています。(女性・小売)
<p>その他：</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、興味を持って勉強してきたのだなという姿勢だけを評価してほしい。それだけで合否を出すのは間違っていると思う。(女性・ブライダル) ・成績や選考内容よりも結局は、企業が一緒に働きたいと思うかだと思う。いくら成績がよくても無愛想な人や礼儀がなっていない人とは仕事をしたくないと思います。ただ、重視はしなくても興味があるということは理解してほしい。(女性・ブライダル) ・4年間かけて学ぶことであるので評価の対象になっても良いと思うが、就職活動は相性だと感じたので、成績を評価する企業が多いのも納得できる。(女性・人材) ・勉強に力を入れた人と入れていない人が同等に評価されるのは不平等だと思う。(男性・製造) ・観光学について他の学生よりも知識に富んでいるはずだし、個性として評価理解してほしい(女性・製造) ・大学で勉強してきたことそのものの功績よりも、その内容から自分の人間性が分かっていたら私はそれで良いと思います。(女性・バス)

<あまり評価してほしくない / まったく評価してほしくない>

大学や教員によって成績の評価基準が異なるから
<ul style="list-style-type: none">・やむ負えない理由で授業評価を下げられる場合があるから。(男性・旅行)・学校によって基準が異なっていると思うから。(女性・金融/保険)。・大学での成績のつけ方は大学や教授により違うため。(女性・小売)
専攻内容・成績より人物の方が大事だと思うから
<ul style="list-style-type: none">・成績よりも内面的なものを見てほしい。(女性・旅行)・どちらでもよい。最終的に人で選ぶのは当たり前ですから。(男性・不動産/建設)・学んできた勉強は必ずしもその会社、業界にとって活かすことができないから。むしろ、勉強と人間性はかけ離れていると思う。実際に働くのは人間の能力だけではなく、人間性にも関わってくると思うので、評価してほしくない。(女性・ブライダル)・勉強はしてきましたが、勉強よりも人柄を重視されるころのほうが就職後も中身までしっかりと知られている安心感があるから。(女性・飲食)・成績よりもその人の個性が大切だと思うから。(女性・金融/保険)・学校での勉強はある種[与えられる]ものをこなすが、社会ではそれだけではいけないと思う。どのように対処するのか、どのような考えをもっているのか、[個]をみて会社と就活生をすり合わせる大切だと思うので。(女性・放送/出版)・成績だけでその人の能力を決めるのはよくないから。仕事と勉強は別物だと思う。(女性・小売)・人柄を見てほしい。(女性・小売)・何をしてきたかよりもその人がどのような意思で取り組み成果を残してきたかが大切になると考えるので勉強してきた内容は大概必要ではないと思う。(女性・情報/通信)・何を学んだか、よりも自分がどう考え行動したのか、が重要だと考えるため成績などはあまり関係ないと思うから。(女性・人材)
4年間で興味は変わるから、違う業界へ就職しづらくなるから
<ul style="list-style-type: none">・専攻内容と異なる業界に就職しようとした際に、不利になると考えるため。(男性・ホテル)・途中で自分の夢が変わる場合もあるため。(女性・ブライダル)・4年間の大学生活の中で望む進路が変わるかもしれないから。(女性・金融/保険)
それほど勉強に力を入れなかったから
<ul style="list-style-type: none">・それほど大学で自信を持ってこれを勉強してきたというものがないため。(女性・航空)・大学の授業でこれが身についた！と自信を持って言えるものが特にないから。(女性・航空)
その他
<ul style="list-style-type: none">・必ずしも大学で勉強してきた内容と入社後の業務内容と直結するわけではなく、大学の内容と社会に出た内容は別物だと思うから。(女性・ホテル)・私の場合、専攻した内容を就職に結びつけるつもりは毛頭なく、あくまで趣味のようなものだからです。(女性・金融/保険)・ゼミでの活動や大学での勉強についてはあまり聞かれることがなかったため、大学に通ってたくさん授業を受けた価値や意味を感じなくなってしまった。しかし大学での勉強より頑張っていたことがあるので、そちらで評価してもらいたい。(女性・小売)

(9) 就職活動の結果に、どの程度満足しているか

グラフ11 就職活動の結果に満足しているか



<民間企業内定者ベース:n=91>

就職活動の結果、つまり、内定先の企業にどの程度満足しているかを聞いた。結果は、「満足」が89%、「不満」が11%。高い満足度を見ると、ほとんどの学生が、就職活動の過程はどうあれ最終的には自分の納得いく企業に出会い、そこに落ち着いていることが読み取れる（納得せざるを得ない場合もあるが）。

ここで合わせて考えたいのが、「観光業界へ行く観光系学生は1割※」という数字だ。観光教育議論においては、この数字を根拠に観光系学生の基礎学力の低さを

や、学生を集めるために観光系学部・学科の新設が相次いだ、といったマイナス面ばかりが強調され、「だから日本の観光系大学はだめだ」「観光学は新しい分野だから未熟だ（＝そこから排出される人材も未熟だ）」といった何の前進もない結論に落ち着くのがパターンである。

しかし当の学生は、そのほとんどが自分の進路に満足しているか、折り合いをつけ納得しているのだ。設問(2)で明らかになったように、観光業界に【行きたくても行けなかった】より【選ばなかった】割合の方が多いわけであるし、「(就職活動時点で)自分のやりたい仕事を優先した」「観光学は趣味(教養)として学んでいた」「学業と職業は別に考えている」といった十人十色の進路観を学生は持っている。就職活動でピンと来る企業と出会ったら、そこが観光と関係あるかなどは考えず、直感的に入社を決めるパターンだつてあるだろう。

【行きたくてもいけない】学生にマッチング等のサポートをするなら素晴らしい。しかし、進路選択は学生の自

由であるし、それを他人が批判したり、大学に対して不名誉なレッテルを貼るのは不毛ではないか。大学経営者のもとよりそこに在籍する学生にとつても好ましくない。それを、この数字が示していると思うのである。

※観光庁調べ。厳密には「12.2%」。2008年〜2010年の3年分の卒業生の進路を集計したデータ。

2-3 Topic2 「観光系学部・学科での4年間」結果

(1) 観光系学部・学科の選択理由

	学部・学科の選択理由	人数	割合
1位	旅行が好きだったから	61人	51%
2位	旅行業界に興味があったから	55人	46%
3位	ホテル業界に興味があったから	37人	31%
4位	滑り止めで仕方なく入った	26人	22%
5位	珍しい学部・学科だったから	24人	20%
6位	国際感覚が身に付きそうだったから	22人	18%
7位	何となく楽しそうだったから	21人	18%
8位	航空業界に興味があったから	20人	17%
9位	地域活性化に興味があったから	14人	12%
10位	学部・学科はどこでもよかった、大学そのものに魅かれた	11人	9%
11位	海外研修が充実していそうだったから	9人	8%
12位	就職支援が充実していたから	7人	6%
13位	親の勧め	4人	3%
14位	留学制度が整っていたから	3人	3%

<全体：n=120>

観光系学部・学科を選択した理由を、最大3つまで選択してもらった。結果、第1位は「旅行が好きだったから」で、回答者の半数が選択している。続く2位、3位は観光関連業種を目指して、との回答であった。

(2) 専門分野

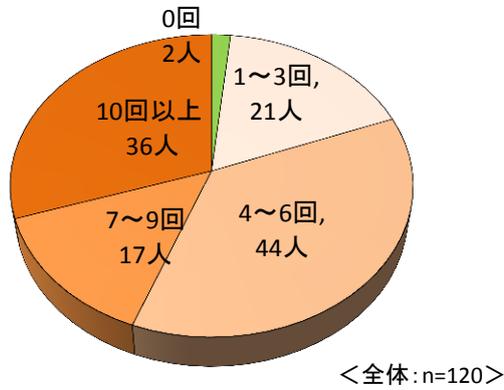
専門分野（自己評価）	
ホスピタリティ	31人
地域振興	17人
まちづくり	16人
サービス	9人
経営学	7人
文化人類学	5人
都市計画	4人
心理学	3人
歴史学	3人
経済学	2人
社会学	2人
地理学	2人
景観デザイン	2人
その他	12人
専門と呼べるものはない	12人

「観光」という共通テーマから、経営学等ビジネス思考へ進む学生もいれば、ホスピタリティについて研究し接客業に活かす学生、はたまた文化人類学や歴史学等アカデミック系を好む学生もいる。一口に観光学と言っても、興味を持つこと、学ぶ内容は様々であることがよくわかる。

それぞれの専門分野を尋ねた。ゼミに入っていない学生もいるため、「専門分野」自分なりに興味を持って深く勉強したもの」と定義した上で回答を得た。

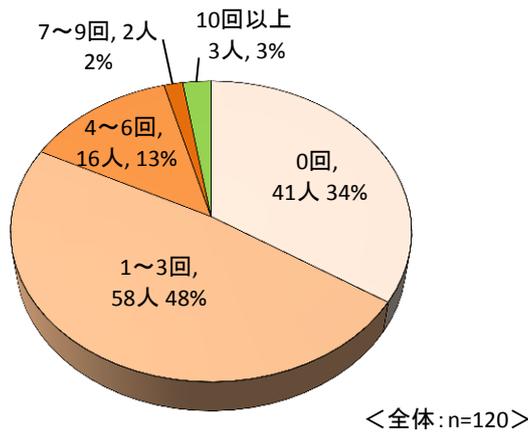
(3) 在学中の国内・海外旅行経験

グラフ12 在学中の国内旅行経験



設問(1)の「観光系学部・学科選択理由」では、「旅行が好きだったから」がトップであった。では、実際のところ観光系学生はどのくらい旅行へ出かけているのか。国内・海外別に聞き、海外については渡航先も聞いてみた。留学・大学の研修・ボランティア等も含めず、個人手配の旅行のみカウントしてもらった。

グラフ13 在学中の海外旅行経験



る。
データとして面白いのは、やはり海外旅行経験だろう。回答者全体の120人のうち、79人(66%)の観光系学生が在学中に1回以上海外旅行へ行っているとの結果だった。うち7回以上という学生が18%おり、どこから資金を捻出しているのか聞いてみたいくらいである。また、渡航先で最も多かったのは「韓国」であった。

	国	人数	割合
1位	韓国	31人	39%
2位	アメリカ	22人	28%
3位	台湾	16人	20%
4位	イタリア	14人	18%
5位	イギリス	10人	13%
6位	フランス	8人	10%
6位	ドイツ	8人	10%
6位	グアム	8人	10%
9位	中国	7人	9%
9位	タイ	7人	9%

<海外旅行経験者ベース:79人>

(4) 観光系学部・学科に入って良かったと思うこと

観光系学部・学科に入って良かったことを複数回答で尋ねた。

最も多くの学生が共感したのは、1位「明るい性格の学生が多い、学部の雰囲気が良い」であった。元々旅行好きで、社交的な性格の学生が集まりやすい学部・学科なのだろう。2位「他学部に比べて面白い・斬新はテーマの講義が多い」も票を集めた。他学部にいたことではないであろうから主観的な判断ではあるが、「観光」という楽しみを科学する学問を専攻し、飽きることなく4年間を過ごすことができるのは確かなようだ。3位「フィールドワークや海外研修など、国内外の現場に出るの学習機会が豊富」にも回答が集中した。観光学ではよく、「実際に現場を見に行くことが大事」と言うが、学生側もそれを好んでいることが分かる。

	観光系学部・学科に入って良かったこと	人数	割合
1位	明るい性格の学生が多い、学部の雰囲気が良い	57人	48%
2位	他学部に比べて面白い・斬新なテーマの講義が多い	54人	45%
3位	フィールドワークや海外研修など、国内外の現場に出るの学習機会が豊富	49人	41%
4位	旅行経験が増えた、旅行の仕方が分かった	45人	38%
5位	観光関連業界のゲストスピーカーの話聞く機会が豊富	43人	36%
6位	観光業界のマイナス面についても知っており、憧れだけで志望せずに済んだ	38人	32%
7位	観光研究を通して地域社会とのかかわりを持つことができた	33人	28%
8位	一緒に旅行に行く相手を見つけやすかった	21人	18%
9位	目指す業界が絞られているため就職活動を始めやすかった	13人	11%
10位	観光関連企業の選考を通過しやすかった	10人	8%
11位	観光系学部・学科に入らなければ、今決まっている就職先を選ぶことはなかった	10人	8%
12位	英語・第2外国語の講義が豊富に用意されていた	5人	4%

(5) 観光系学部・学科に対して不満に思うこと

(4)の対の設問として、観光系学部・学科に対して不満に思うことを尋ねた。これらの選択肢は、私たちが会議メンバーが感じたことを出し合い、列挙したものだ。共感を多く得たもの、得なかったものがあるが、どの選択肢にも誰かしら投票者がいるを見ると、どれも少なからず観光系学生が感じることであることは確かだろう。

	観光系学部・学科に対して、不満に思うこと	人数	割合
1位	同じような話が多い、個々の講義に重複がある	55人	46%
2位	何を学ばせたいのか、目的がはっきりしない	48人	40%
3位	周りの学生の私語が多い	32人	27%
4位	シラバスと一致しない、受講してみると期待外れなことが多い	26人	22%
5位	実社会で何の役に立つのか分からない	23人	19%
6位	ネットで調べればわかるような内容が多い	19人	16%
7位	研究対象や紹介事例が、大手有名企業に偏っている	17人	14%
8位	会社の事業紹介に留まっている	14人	12%
9位	ゼミについて、教員の話聞くだけで終わってしまうなど、研究の充実感がない	14人	12%
10位	ゲストスピーカーが、大手有名企業に偏っている	13人	11%
11位	希望のゼミに入れるかどうかで就職が大きく左右される	11人	9%
12位	実業出身の教授による企業体験談が多い	10人	8%
13位	何を教えるにも就活を意識しているように感じる	10人	8%
14位	ゲストスピーカーの回数が多すぎる	6人	5%

不満に思うことはない	2人
------------	----

(6) 4年間で面白かった講義
 (7) あったら良いと思う講義

設問(6)では「4年間で面白かった講義・印象に残っている講義」を、(7)では「観光系学部・学科であったら良いと思う講義」を聞いた。もちろん「面白い」と感じることは人によって様々であり、カリキュラムの異なる大学どうし比較してもあまり意味がない。しかし、結果を読み込んでいくと、学生が「面白い」と感じる講義にはいくつかの共通点が見えてくる。また、「面白い」と感じた理由まで示してくれた回答者からは、講義づくりの参考になる意見が寄せられている。

※各大学の対外的評価に影響を与えてしまうものであるため、公開する報告書上では大学名を伏せて掲載している。(学生は、自分の大学の項目はある程度講義名等から推測して探していただければと思う。)

ただし、本報告書を各大学へフィードバックする際には、その大学の学生から寄せられた意見については分かるように明示した上で送付する。

A 大学

面白かった
・観光産業論。(女性)
・観光地理学。(女性)
・観光倫理学。(女性)
・ゲストスピーカーにそれぞれの国の特徴や観光政策について話をきく講義。なかなか得られない機会だったのでとても貴重な体験だった。(女性)
・イベント論。観光の専門科目ではありませんでしたが、身近なイベントの成り立ち方や集客法について勉強することができ、楽しかった。(女性)
・マナー講座。元航空会社の先生が教える女性らしいマナーであったので、様々な場面で役に立った。(女性)

あったら良い
・諸外国の観光事情。(女性)
・観光関連の業界に就職を希望している人に向けての、実践力を身につける授業があればいいと思います。(ツアー内容を各自で考えて発表し合う内容や観光における広告の役割を重点的に学ぶ授業など) (女性)

B 大学

面白かった
・実際にCAをやっていた方が講師をしてくれ、色々な話が聴けた講義。(女性)
・ホスピタリティや、人材育成の講義は大変興味深かったです。(男性)
・ディズニーのビジネス分析。(男性)
・ディズニーランドの研究。(女性)
・レジャー産業論。ディズニーなどキーワードを聞いただけで興味のもてる内容であったこと、また実践的にも経験できたため。(女性)
・人文科学基礎(ことばとコミュニケーション)。日本他国を比較することで文化や習慣の違いがわかった。(女性)
・ゼミ活動。同じ夢を持つ仲間と共に支え合い、助け合い夢を追い続けることができたため。(女性)

あったら良い
・講義のなかで座学と実践を交互に取り入れる。(女性)

・実際に現場で働いていた人の講義。(女性)
・もっと、ホスピタリティというものを学生同士で話し合う講義。(男性)
・自己分析をする授業があってもいいと思う。(女性)

C 大学

面白かった
・国際観光論。理由はこの授業を通して観光のことを詳しく知ることが出来たからです。(女性)
・ツアーガイド論。(女性)
・ツアーガイド論。スライドが素敵だった。(女性)
・非常勤の先生が大学外で参加しているツアーコンダクターの仕事ぶりを毎回の講義で写真付きで詳しく聞けた講義。パワーポイントが非常に見やすく、先生の発表も上手く、その内容にとっても惹きつけられた。(男性)
・航空サービス論。(女性)
・ホスピタリティ実習。(男性)
・ホスピタリティ実習。実技のため身についた。(女性)
・エンターテイメント産業論。(女性)
・ディズニーの裏側を知れたエンターテイメント産業論。(女性)
・ディズニーランドのホスピタリティ、ハウステンボスの再事業。(女性)
・ブライダルプランナー論。(女性)
・イベントコンベンション論。自分達で企画をたてられた。(女性)
・ゲストスピーカーの話が聴けた講義が印象に残っています。ただ先生から話を聞き、学ぶよりも実際にその場で働いている人の話を聞くことでより具体的なことを知れるからです。(女性)

あったら良い
・海外の企業(ホテルなど)にインターンシップ。(女性)
・もっといろいろな国の文化を学んでみたかった。(女性)
・実際に業界で働いている人の経験談、状態が聞ける講義。(男性)

D 大学

面白かった
・ゼミ活動。(男性)

E 大学

面白かった
・エコツーリズムや、世界遺産の授業。最近注目されているので、比較的イメージのつきやすい授業でした。(女性)

あったら良い
・もっとゲストスピーカーを取り入れて、自分達の進路を明確にさせるべきだと思いました。(女性)

F 大学

面白かった
・観光政策論。(男性)
・観光政策論。本学の特徴を理解した授業だったから。(男性)

<ul style="list-style-type: none"> ・観光地化された地域のプラス面とマイナス面を分析した講義。本当にその地域が経済的に豊かになっているのかなど。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・「旅の起源とは何か」という観光の誕生と歴史のお話。初歩的なお話ではありますが、旅がどのように誕生していったのかという歴史と過程を知ることができて、とても印象的でした。昔は、観光というものは娯楽の一部であって、学問にはならないだろうとされていたのが一変して、観光学が誕生したのはとても感慨深いです。(女性)

<p>あったら良い</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・F大学は、地域政策が前提の観光政策なので、就職先はともかく、あまりホスピタリティといった科目は他学校より充実していないかもしれない。また最近では、観光による地域振興も盛んなので、旅行業界などのサービスを提供する業界からだけではなく、役所や観光協会などの団体からのお話を聞く機会があってもよいと思う。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊経営論。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光について学んでもそれを実際に社会の中で発揮することは難しく、その学生の就く仕事や職種によって、せっかく大学で観光について学んだことが無駄になってしまう可能性もあることが懸念されます。ですので、観光で学んだことを社会に出てから活用するためにも観光実践学、観光応用学のようなアウトプットの方法を導き出す学問があったらなと思います。(女性)

G 大学

<p>面白かった</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光社会学。自分の興味にピッタリ合っていたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光文化財についての授業。就職に関係なく自分が好きな分野だったから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行サービス論。実際に旅行プランを企画し、プレゼンするなど様々なことを経験することができ、とても勉強になった。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーランドについて学べたことが楽しく印象に残っています。(女性)

<p>あったら良い</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンの幅を広げてほしい(学生からアンケートをとる)。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルマナーや正しい言葉づかいなど具体的に実践して学ぶ講義。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光業界に限らず、他の業界のゲストスピーカーの講義がもっとあっても良いと思います。(女性)

H 大学

<p>面白かった</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・国際観光交流論。実社会で使えることなど広く詳しく勉強できたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・国際観光論という、航空・旅行・宿泊業すべての専門知識を教えてくれる授業が大変為になった。就職活動で人事の方から観光専門用語が出てもすぐ意味が理解できたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・航空関係の授業は自分の進路のきっかけにもなったので、熱心に受講していたと思うし、全体的に面白かった。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミックな知識だけを教える講義ではなく、観光における実務と業界に関する知識を紹介した実践的な講義。(女性)

<p>あったら良い</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に教授が話すだけの講義ではなくて、グループワークを増やして欲しい。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークの講義があったらいい。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・私の大学では、講義を聞くことがほとんどだったので、接客など実務を加えたものがあると良かったと思います。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光の職種に就いたら使う英語を教える授業や、ホスピタリティを学びマナーや接遇を実践的に学べる授業が欲しかった。(女性)

I 大学

<p>面白かった</p>

・観光心理学。観光行動は人の無意識的な行動によって左右される。人の心理を理解することは観光地づくりに大きく貢献するかもしれない。マーケティングにも心理学は役立つことがある。(女性)
・景観についての講義。普段なかなか注意深く意識することは少ないが、日常生活において必要不可欠なことであり、生活と密接に関わっているため。(男性)
・イベントプランニング論。(男性)
・シティプロモーション演習、イベントプランニング論。事例について議論したり、お互いの知見をプレゼンしたりするアウトプットが多い授業だから。(男性)
・シティプロモーション演習。観光による地域振興の成功事例を研究する少人数制の授業。成功のカギとなったものは何かを考えることで、ほかの観光資源について考えるときの参考になった。(女性)
・サービス産業論。(女性)
・サービスマネジメント総合研究。たくさんの企業のゲストスピーカーの方からいろいろなお話を講義内でも個人的にも聞くことができ、とても充実していたと思います。(女性)

あったら良い

・理論だけでなく、実践まで導く講義。観光業界の闇を明らかにする講義。(男性)
・実践で使えるマーケティングやその例。(女性)
・学部の名前と就職活動を意識して、旅行業務取扱者試験に備えた授業。(男性)
・ゲストスピーカーの方からのお話は貴重だし面白いと思うが、どうしても就活の際の企業説明会に来ている感覚。せっかく1時間半もあるのだから、講義以外のことも授業中に取り入れたら面白いと思う。たとえば新人研修で行っていることや最低限知ってほしい基礎知識についての授業など。(女性)
・マナーについて。(女性)

J 大学

面白かった

・旅行法規の授業は、旅行業界に就職するならためになる授業で、充実感があった。(女性)
・旅行法規。自分で学習すると覚えるだけだが、講義ではその背景などを学べたから。(女性)
・エアラインの授業。実際にパイロットや客室乗務員をしていた方が大学へ来てくださりお話が聴けたから。(女性)
・レジャー産業論。あらゆる業界の歴史やサービスについて学ぶことが出来たため。(女性)
・ゼミ活動。2年間同じメンバーで活動することで、切磋琢磨しあえる仲間ができたし、自分たちの力でフィールドワーク等の企画運営をすることで成長できたと思うから。(女性)

あったら良い

・実践的で、本気で資格とる気位の講義があった方がいい。中途半端な授業ばかり。(女性)
・日本に誇りを持てるような講義。(女性)

K 大学

面白かった

・アーバンツーリズム論。(女性)
・エアライン概論。(女性)
・エアライン概論。(女性)
・エアライン概論。空港に行ったから。(女性)
・ブライダル演習。(女性)
・観光歴史・地誌(海外)。海外の観光についてや、観光が始まった理由など詳しく知れたのでよかった。(女性)
・観光地理の講義は面白かったと思いますが、教授のキャラクターのおかげだと思います。(女性)
・エコツーリズム。新しい観光形態を学ぶことが出来た。(女性)
・茶道・華道など、日本の伝統文化を学べる授業です。(女性)
・国内フィールドワーク。(女性)
・国内フィールドワーク。実際に現地に訪れて観光したので、印象に残っており、自分では行かないような場所で、経験できないような体験をすることができたため。(女性)
・女性性学で、いろいろな女性性のゲストを呼んでくださり、結婚観や仕事面についての話を聞いたことがすごく為になっ

た。(女性)

あったら良い

- ・もっと実習が増えたらいいと思う。(女性)
- ・もっと資格の取れる講義があったらいいのに。(女性)
- ・もっと外国語のバリエーションを増やしてほしい。(女性)
- ・第二言語をもっと増やしてほしい。(女性)
- ・なんでも良いが、自分の研究発表のような講義でなく、今の社会問題を交えながら話題を膨らませてもらえればもっと面白い講義になると思う。(女性)

L 大学

面白かった

- ・観光地理学。(女性)
- ・観光集客論。(女性)
- ・プロフェッショナルコース限定の観光ホスピタリティビジネス集客論が、他の授業と全く異なり少人数性のアメリカンスタイルの講義だったので楽しくできた。(女性)
- ・観光事業論。観光のことについて何もわからない私でもわかりやすい講義でした。観光の基礎的知識を多方面で紹介してくれたのでイメージしやすかったです。(女性)
- ・ディズニーを題材にした講義は、今までゲストの視点から楽しむことしかしていなかったので、裏側ではこうなっているんだとかを映像や本を通じて学べて楽しかったと思う。(女性)
- ・いろいろと実際に行ける授業。(女性)
- ・料飲ビジネス論。(女性)
- ・料飲ビジネス論。実際に考えさせられることが多くて、ただ聞いているだけの授業ではなかったので受講していて楽しい。名ばかりでホテルの裏話とか聞けるので知らないことも学べた。(女性)
- ・有名な会社のおもてなしの作法等の学習 (女性)

あったら良い

- ・基礎も大事だが、観光業の現状など皆でディスカッションしたりする講義があれば面白いと思った。(女性)
- ・講義だけではなく、実際に現場に行く機会を増やして欲しい。(女性)
- ・ホテルの業界や旅行業界といった業界についてあまり専門的に学んだ感じがしなかったのもっと就活にも活かせるくらい専門的に学べる講義があってもいいのではと思った。(女性)
- ・ホテル関係の授業が多いので交通系の授業があるといい。(男性)
- ・旅行会社と連携し学生がツアーを企画し実際に販売できる機会があればもっと楽しく学べると思う。(男性)
- ・接客で使う英会話の授業。(女性)

M 大学

面白かった

- ・開発と文化。(女性)
- ・開発と文化。(女性)
- ・開発と文化。途上国開発やボランティアについて関心があり、実際に途上国で開発に携わっていた教授が、具体例を含めて教えて下さったので。(女性)
- ・開発と文化。具体的な開発事例とともに、文化人類学の視点から「開発は善か悪か」を考えさせられた。また、試験も事前準備が必要で、積極的に学べてよかったと思うから。(女性)
- ・マーケティング。分かりやすく面白かったから。また、違う視点から観光・観光業がみられたから。(女性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティ・マーケティング。ホテル、旅館、レストランなどのホスピタリティ商品を、単なる「おもてなし」でなく事業として成立させるためにはどうすれば良いのか考察するという内容だった。サウスウエスト航空、アマンリゾーツといった観光関連業界に加え、自動車や食品といった様々な企業の成功・失敗事例をもとに、ホスピタリティ商品の特性、今後消費者に受け入れられる価値とは何か、などを学んだ。その講師の方が、単なる事例紹介ではなく、それを他の企業でどう活かせるのかという独自の理論を導き・教えることに拘っていた点が、とても良かったと思う。これこそ「観光学部生独自の視点」を教える講義だと思った。毎回課題が出され、プレゼンも3回くらいしなければならぬ、学生にとっては比較的辛い講義だったが、お蔭で必死に考えさせられ、内容を頭に定着させることができた点も良かったと思う。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化と観光。観光の「真正性」について深く考える講義でした。いわゆる「頭を使った」学問をやらせてくれた気がする。レポートに一番手こずったのもこの講義でした。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・ツーリストアート論。アートにもともと興味があったので、観光と結びつけて発展する例をいくつも見られて面白かった。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光と文化。文化人類学の視点から学ぶことができたため。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光人類学2。先生が好きだったから。また、新しい視点や考え方を知ることができたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・文化人類学。発展途上国の現状をリアルに知ることができ、自分たちのやるべきことが明白に見えた気がしたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・「文化には「本物」も「偽物」もなく、そのどちらも、時代や環境に合わせて、変化していっただけのものである。」というものです。この旅行形態はあからさまに金儲けだなど不審に思い、「偽物」だという考えに固執していた私にとって、驚きかつ道が開けるような講義だったからです。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・都市観光論。都市観光の基本が学べ、事例も豊富に出されて興味がわく内容。先生も少し厳しめなので授業中私語をしている学生がいなく、集中できる。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・早期体験プログラム。(女性) ・エコツーリズム論。(女性) ・途上国の観光事業。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光交通論。ゲストスピーカーが多く、観光の最先端について学ぶことができたので。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊産業論。講師の先生が元ホテル GM で人柄から講義内容まで素晴らしかったから (男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・東京ディズニーリゾートの文化論。東京ディズニーリゾートについて多角的な視点でみることができたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光インターンシップ授業。日本のホテルで実務経験しながら、ホテルの仕事と自分の適性を考えることができたので。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・経団連インターンシップ。実習や発表など、いい経験が積めたから。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミが面白かった。少人数のため教授との距離も近く、卒業論文執筆を通して、観光のことを身を持って学ぶことが出来た。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・私は「観光学部」という学部で4年間身を置き、その中で「観光」という現象を学んできたが、経済学、文化人類学、社会学等、あらゆる角度から観光を学べたことは良かったと思っている。ゆえに、「特にこういう講義を増やして欲しい」といったことはない。(男性)

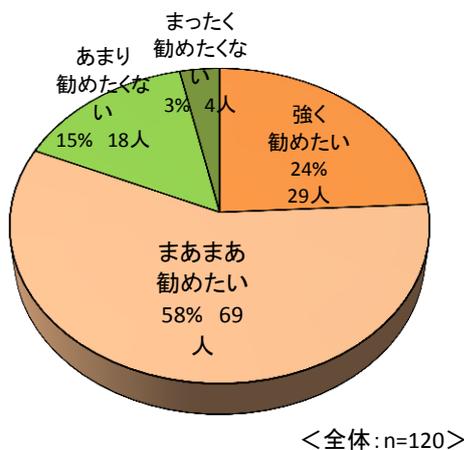
<p>あったら良い</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光学の社会への応用の仕方。観光学を大学で学んだ後、他業界でその学びを活かしている人のお話を聞く機会がほしい。そうすれば、たとえ観光業界へ進まなくても観光を学ぶことへの意義が持てると思う。(男性) ・どの講義にも共通するが、「観光学部生独自の視点を持たせること」にもっとこだわって講義してほしい。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけでなく、専門学校で学べるような実践的な技術を教える講義や、そのような機会（例えばホテルでの実習が認定単位になる等）があれば良かった。(女性) ・旅行計画に必要な知識など、実践できるものも学びたかった。(女性) ・講演会レベルでいいので、上手な旅行の手配の仕方や、海外での宿泊・交通事情、通信事情、危機管理といった、旅行ノウハウを教えてほしい。特に、海外へ行く学生の多い学部だからこそ、危機管理意識を身につけることは必要ではないかと思う。旅行の仕方を知ることは、学生の行動力の源泉となる。また、以前ゲストスピーカーとして外務省の海外旅行危機管理担当の方の講義を聞いたことがあり、それがとても参考になったため。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・こういう講義が〜という話とは少しそれるかとは思いますが、個人的にはいわゆる「旅行業界」「観光産業」の話聞くことを先にしたほうが良いと思います。最初に「観光概論」のような教授の突き詰めた研究を見ても何のことやらさっぱりなので、まずはとっかかりよく旅行業界で起こっていることや具体例を頭に入れてから、各教授が研究されていることを聞いたほうがよいと思います。(女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・観光に限らずあらゆることを様々な角度から考えることができるようになるように、様々な分野の講義が受けられると良いと思う。(男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・教授と学生の意見交換が豊富にある講義。(女性)

・レポートの採点を掲示してくれる講義。(男性)

・今は「観光学に答えはありません」というのが前提の講義が多く、思考停止している。もちろん考えた結果、答えがなくても構わないが、学生が答えを探すためのヒントや考えるきっかけくらいはほしい。授業中、頭を使ったという気がしない。(女性)

(8) 自分の大学の観光系学部・学科を高校生に勧めたいと思うか

グラフ12 高校生に勧めたいか



自分の大学の観光系学部・学科を、大学受験を控える高校生に勧めたいと思うか尋ねた。結果は「勧めたい」が82%、「勧めたくない」が18%と、大きく分かれた。観光系学部・学科の満足度は高い方と言えるのではないか。少なくとも、入ったことを後悔はしていないようだ。ただし、「勧めたい」のうち「強く勧めたい」は24%に留まり、「観光業界へ就職するとは限らない」「興味関心は人それぞれ、進路は自分で決めるもの」などが、「強く勧めたい」とまでは思わない理由として上がっている。

●回答の理由

<強く勧めたい/まあまあ勧めたい>

観光産業は成長する

- ・今後、東京オリンピックもあって、観光は注目されるから。そして日本の観光はまだまだ成長産業であるから。(H大学・女性)
- ・これから観光は日本にとって成長する産業だから。(L大学・女性)
- ・今後(観光は)成長するはずなので、ぜひ学んででもらいたいと思う。しかし単純にツアーコンダクターやキャビンアテンダントになりたいと思ったり、旅行が好きだから、という理由であれば、専門学校に行くことを進めたい。大学では何を勉強するのか、きちんと理解したうえで進路選択をしてもらいたい。そのためには大学からのPRの仕方、情報の流し方、環境づくりの徹底が求められるのだと思う。(I大学・女性)
- ・観光は、景気も回復しつつありオリンピックの開催も決定した日本では伸びていくであろう業界であること。また、海外からの留学生との交流を多く持つことができるので視野を広げやすいと感じるから。(I大学・男性)

ホスピタリティ、コミュニケーション能力を磨ける

- ・知識だけではなくホスピタリティなども身につけることができ人として学べるのが結構あったため。(B大学・女性)
- ・頭がよくなくても、サービス業には就職できるから。頭の良さよりも社会にでていくときに必要なものが得られたから。(B大学・女性)
- ・観光学部は観光を学ぶだけでなく、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力の向上もはかれる。(K大学・女性)
- ・たとえ観光関係の職業に就かなかつとしても、人との接し方などを学べる。(J大学・男性)
- ・ゲストスピーカーの話も聞けて、観光に特化している学科であり、ホスピタリティのことについて学べるので勧めたいと思います。(C大学・女性)

<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出るためのマナー等を学べ、活かすことができる。(K大学・女性)
学問としての面白さ、幅広さ
<ul style="list-style-type: none"> ・観光は裾野が広いので、物事を多角的に見れるようになるから。(J大学・女性) ・楽しい。様々な分野を手法に様々な見方をできる学問で、ほとんどの授業が興味深いものであり、机上の講義だけでなく、フィールドワークできることも素晴らしい経験と思います。(M大学・女性) ・観光はどの分野にでも通じるものだから視野を広く持てる。選択肢が広い。(H大学・女性) ・観光学は新しい学問なので、自分たちで考えながら勉強できるからです。(K大学・女性) ・全ての学問に広く、浅くリンクしているので気になった分野を好きなように掘り下げられるから。(I大学・男性) ・観光関連の授業だけでなく、マーケティングや消費者心理など幅広い授業を受講することができ、今後社会に出るために必要な知識も学ぶことができると思うため。(G大学・女性) ・どの業界に行くにしても、通用する知識や考えを学べると思うから。(B大学・女性) ・様々なビジネス発想や事例を学べるため。(B大学・男性) ・特定の分野に進みたい人は別として、観光学部はいろんな学問に触れる機会があるので、「正直なところなにを学びたいかわからない！」という高校生にとってはかなりお得な学部だと思う。そういう意味では、この学部はおすすめできる。(M大学・女性) ・その子の興味にもよるので、別にゴリ押しする気にはなりません、学ぶ内容に関心が高いようなら勧めたいです。枠組みにとらわれず、進路を考えられる学生が多く、視野を広げやすい環境であると思うので、漠然と「世界を拡げたい」と思っている学生には最適だと思います。(M大学・女性)
授業が楽しい フィールドワークも楽しい
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい授業が多いから。(L大学・女性) ・楽しい。充実した学生衣生活を私は送ることができたため。(B大学・女性) ・学外に出て学ぶことが多いため、社会に出てから役に立つことが沢山あると感じます。(A大学・女性) ・地域活性化などに興味がある人には特に。企業や行政の方と一緒に様々な事を成し遂げたり、他の学科より自分たちで動いたり活発な学科だと思うので色々な事を学ぶ事ができるから。(L大学・女性) ・他ではできない体験ができる。机上の講義は充実しているとは言い難いけれど、フィールドワークでは多くのことを学べたと思う。(M大学・女性) ・「観光」と聞いて想像する授業内容とはことなるが、海外を意識している学生が多く、世界へ目を向けるきっかけがたくさんあるから。また、ゼミによってはフィールドワークが充実しているから。(M大学・女性) ・自分でもいろんな体験ができて、様々な場所に行ってみて、広い考え方を持つことができたので。(M大学・女性)
旅行が楽しくなる
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行する際もただ観光するのではなく学んだこととリンクさせ楽しむことができるようになるから。(A大学・女性) ・観光の勉強をすることで、旅行も一段と楽しくなるため。(A大学・女性)
刺激的な友人関係
<ul style="list-style-type: none"> ・観光学部内での研修プログラムがたくさんあること、そして何よりも明るく気さくな学生が多いため。(I大学・男性) ・人が好きで、アクティブな人には勧めたい。(H大学・女性) ・アクティブな友人がたくさんいるので、刺激をもらえるから。(J大学・女性) ・行動的な学生が多く、友人からプラスの影響を受けやすいので。(M大学・女性)
4年間じっくり自分の将来を考えられる
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業にすぐ入りたいなら専門学校に行った方が早い。ただ、色々と考えていきっぱりと将来が決まらず旅行業に興味があるなら4年間の大学生活の中でじっくり考えることができるので勧めます。(C大学・男性)
楽しい学問なので勧めたいが、観光業界へ進むとは限らない、社会に出て観光学を活かせるとは限らない (※「まあまあ勧めたい」の回答)

- ・講義は今まで学んだことのない観光にまつわることが多くて楽しく学ぶことができると思うが、就職活動をするときに必ずしもそれを活かしたり、観光に関わる仕事に就くかは分からない部分もあるから。(L 大学・女性)
- ・観光の知識がつくので良いと思う。しかし、観光の学部学科にいる学生が必ずしもそういった分野に就職するとは限らない。(L 大学・女性)
- ・観光に少しでも興味があるのなら、観光学部を選んでもいいと思う。しかし、この学部で自分が何を学んでいるのか、学びたいのかわからなくなることがあった。学部を選ぶ時、まず自分の興味のあることは何なのかを大事にしてほしい。そして旅行が好きだから観光学部！ではなくて間接的に観光と繋がりのある学問も見て、本当に学びたいことが学べると思う学部を選んでほしい。(M 大学・女性)
- ・学問として学んでいて楽しかったが、観光を学んだ者の多くがさほど関連性のない他業種に就くことを考えると、大学で学んだことがそのまま社会において役に立つかと言えば少しばかり疑問であるため。(M 大学・男性)
- ・自分としては満足しているが、専門的なので就職の幅が狭くなってしまうのと、語学が十分に学べないから。(M 大学・女性)
- ・観光の分野に興味があるのであれば、進学後興味深い体験や勉強が出来ると思う。しかしその経験を通してこの分野に失望することもあり、その場合、4年間大学で学んできたこととはまったく関係の無い職業につくことになる。(M 大学・女性)
- ・観光学は他学部 비해、身近で面白い講義が多いように思うから。ただし、マイナス面も知ることになるので、逆に観光業界に就職する可能性が低くなってしまうかもしれないという点を踏まえ、「まあまあ勧めたいと思った。(M 大学・女性)
- ・私はこの学科に入ってよかったと思っていますが、何も考えずに漠然と観光が好きだからという理由で入学してはいけない学科だと思うからです。私の友人でも前述のような姿勢でこの学科に入り、失敗したと感じていた人は何人もいました。観光学に対し、熱意を持って学び、その都度実践していこうという気持ちがある人にはぜひ勧めたい学科です。(A 大学・女性)

結局は自分次第である (※「まあまあ勧めたい」の回答)

- ・自分次第だからです。(G 大学・女性)
- ・自分の行動力次第ではあるが、動けば動くほど世の中のあらゆることを学び、吸収できる。(I 大学・男性)
- ・自分で興味を持つことがなければ何もしないまま時間が過ぎるから。(M 大学・男性)
- ・観光学部も楽しいけど、他の学部でも勉強になることはたくさんあると思うから。(M 大学・女性)
- ・私は満足だけど、あくまで本人の好きにさせるべきであるから。(E 大学・女性)

<あまり勧めたくない / まったく勧めたくない>

観光業界へ進むとは限らない

- ・旅行が好きだけで選んでもその道に進めるとは思わないから。(A 大学・女性)
- ・観光系の大学へいかなくとも、観光業界への就職はでき、むしろ多くの教養・知識を得られる大学の方がよいと思うから。(A 大学・女性)
- ・最近ではたくさんの大学で観光学部ができていのもっとしっかり考えて入って欲しい。また、専門的に学びたいことが決まっているなら専門学校に通うほうがいい。(K 大学・女性)
- ・早いうちに、観光一本に就職を決めていたのは、早かったし、視野が狭かった。(M 大学・女性)
- ・観光系、と絞ってしまわずにもっと広い視野が持てるような学部・学科に入学して欲しい。観光系の学部では考えに偏りが出してしまうと思います。(K 大学・女性)

(9) 観光教育に対して感じること

最後に、観光教育に対して感じることを、自由に記述してもらった。講義づくりやカリキュラムに対して「もっとこうしてほしい」という提案もあれば、4年間の学びへの振り返り、観光学について感じていたこと等々、様々なコメントが寄せられた。

●観光学、観光教育に関して

観光学の活かし方、学ぶ意義を明らかにしてほしい

- ・大学で観光学を学ぶ意義を明らかにしてほしい。教授の経験談を聞いたり、自分で調べればわかるような内容を学ぶだけでは、4年間の学びに誇りをもてない気がする。(J大学・女性)
- ・観光学は、観光業界だけでなく広く一般社会にどう活かせるのか、観光学部生独自の視点は何なのか、といったことを、学生に対してもっとメッセージを発してもらいたい。(M大学・女性)

観光学に対して思うこと

- ・日本の大学教育において、未だ「観光学」の概念がはっきりしていないことが、学ぶ側は不安に感じた。(A大学・女性)
- ・観光教育の中には様々なビジネスモデルが入っていると思います。ホスピタリティやビジネスチャンス、経営等の学問が幅広く学べられると思うので為になる学問だと思います。(B大学・男性)
- ・観光は非日常を扱っていて、明るい場面が目につくが、風評被害やそれを支える影には様々な努力、苦勞、問題解決を必要としている。また、時代に沿って変化する。(C大学・女性)
- ・社会に出てからも観光を学び続ける姿勢でいたい。私だったらこうする、この観光地のこれはいいなといったように、観光を楽しみながら観光地の分析なども出来たらと思います。ゆくゆくは、観光で日本を元気にできたらな、と思います。(F大学・女性)
- ・観光というものは一言では表せないくらい奥が深くて面白いと思います。そして、どのような分野も観光に繋がっていることを知りました。(K大学・女性)
- ・観光学は実際に現場に出て学ぶことが大事だと思います。(K大学・女性)
- ・景観などの観点から、日常生活において今までは意識しなかったことに気付くようになった。(I大学・男性)
- ・会話ネタや自身の知識向上など役立つ学問だった。(M大学・男性)
- ・経済学とか他の学問に比べると正確に決まっていない学問だとは思いますが、いろんな範囲の勉強ができて、目に見ることも多くて、幅広い考え方を持てると思う。(M大学・男性)
- ・観光学はまだ若い学問であるため、経済学や心理学からそのノウハウを借りてきているという印象が強い。観光経済学や観光心理学という学問に分岐し、細分化することも多いので、より全体的に観光について学ぶ講義がほしい。イントロダクションである観光学概論ではなく、各分野の専門性を結びつける包括的な講義があると理解が深まると思う。(M大学・男性)

観光系学部・学科に入って良かった

- ・これまでに受けてきたカリキュラムの構成や講義内容について、私は満足しています。通常の授業に加え、休日などで実践的なゼミ活動を行っていたので、学んだ内容をすぐに実践してみることができたからです。観光学においては特に、「現場で実際にやってみる」ということが大切であると実感しました。(A大学・女性)
- ・私は観光学を学んでよかったと思います。興味のない学部に入学するよりもよっぽど自分のためになりました。(B大学・女性)

・私の代は一期生なので周囲の人よりも特殊な授業の受け方だと感じています。ですがそのおかげでいろんな経験もできましたのがよかったです。(C大学・女性)
・座学だけではなく旅博など観光ならではのイベントにも参加する機会があり、フィールドワークも多く良かった。(J大学・女性)
・他の大学では経験できないことが経験できた。町歩きなど。(K大学・女性)
・私の大学は観光の分野に関してはたいへん力が入っているので魅力を感じました。(L大学・女性)
・観光学科に入って間違いはなかったし、専門的なことを学べてよかった。(L大学・男性)
・今まで観光について深く学べる場はなかったことから大学で学べてよかったと思う。旅行や観光に興味があることからこの学科に入れてよかったと思う。(L大学・女性)
・社会に出てから具体的に使える知識はあまり身につかなかったけど、それ以上に大切な、国際的な文化交流の見方やホスピタリティ精神等を学ぶことができ、「人が財産」と言われる金融業につく私にとってはとても勉強になった。(M大学・女性)

●カリキュラムや講義のあり方について

専門性が磨かれない
・面白かった講義は多かったが、ほとんどが観光学の導入で終わってしまい、正直4年間で深く学べたとは思えなかった。観光は、社会学や心理学、地域政策学などさまざまな要素を含んでいて、それを踏まえないと深く学んでもわからないということがあるかもしれないが、大学という機関であれば、そこをカバーできるようなカリキュラムを組むべきだと思う。(F大学・女性)
・研究の蓄積が少なく、演習や卒論を通して本当に学んだことの質や量がやや小さい。(N大学・男性)
・直接観光に関わることのない授業でも幅広い分野を学べる一方で、専門が曖昧な感じになってしまい、周りからどのようなことをやっているかわかりにくい。(M大学・男性)

講義に対する提案
・学生が授業を通じて、感じたことや思ったことを発信し学ぶ機会がもっとあるといいと思います。(B大学・男性)
・まだ資料が少ないということもあると思うけれど、学びやすい観光の教材がほしい。全ての講義がほぼプリントなので、教授によってもばらつきが出て、かつ保管しにくい。(H大学・女性)
・講義中にVTRがあるだけで集中力が上がるが、長すぎるものは逆効果な気がします。(B大学・女性)
・少なくとも人並み以上に旅行好きな人が多くいるはずだから、楽しい旅行をもっと楽しくできるような授業があると良いのでは？(ex. 日本や世界の観光スポット等の歴史や現状、課題等を旅行者目線で学ぶ)(I大学・男性)
・観光を学ぶうえで自国のことについて学ぶ機会がもう少しあれば良いと感じた。(J大学・女性)
・今まで受けてきた授業は講義形式のものが多かったが、観光産業ではやはり人と接することが多いため、グループワークなど他人と接する機会を多く取り入れコミュニケーション能力を鍛えられる機会がもっと多ければと感じる。(J大学・女性)
・講義内容は面白いが、観光と関係ないことも、少し交えて授業するほうが面白いと思う。(K大学・女性)

講義内容が重複している
・観光の授業は内容が重複しがち。(G大学・女性)
・違う授業でも同じ様な内容だったので、もう少し工夫してほしいです。(K大学・女性)
・とにかくカリキュラムに重複が多い。事例紹介に終わることが多く、そこから発展しない。(M大学・女性)

ゲストスピーカーの(更なる)活用・工夫を望む
・色々な企業の話を知りたい。有名企業のゲストスピーカーが多いから。(L大学・女性)
・明らかに教授陣・ゲストスピーカーが有名企業に偏っている。業界を知る意味で勉強にはなるが、学生の進路選択の

視野を狭めている気がする。会社説明会のように単に会社の理念を語るのではなく、一般性のある理論を教えることに拘ってほしい。(M 大学・女性)
・観光業界の変化は大変早く、講義だけでは、最新の情報を知ることができないので業界人の人を呼んでの講義をたくさん入れていったほうが就職にも役立つほか最新の情報を知っていたほうが絶対に良いと思う。(L 大学・男性)
・もう少しゲストスピーカーの話などが聞きたかった。(A 大学・女性)
・ゲストスピーカーなどの貴重な話を聴く機会が多くて良かった。(M 大学・女性)

●それぞれの大学の教え方に関して

それぞれの大学の教え方に対して 大学別に掲載しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと、観光らしくインターンなどの制度を増やしてくれれば楽しみも増え、目標も見つかり、観光に関して学ぶという強い意志がより芽生えると思う。観光経営だからこそ学べるカリキュラムがあれば魅力的である。(G 大学・女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム構成がバラバラすぎる。(H 大学・女性) ・はっきりとした形が決まっていなくて、ぼやっとしている感じ。年度によってカリキュラムが違うことに疑問を持つ。(H 大学・女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・女性性の先生が少ないのが少し残念に思っています。同じ性別の先生の方が聞きたいことや話したいことなどがたくさんあったようにも思いますし、現在以上に先生とコミュニケーションが取れたのではないかなと思います。(I 大学・女性) ・私が通っている大学の学部において私は1期生であり、しっかりとした授業形態が確立されておらず、手探り感が否めないのでふわふわした印象が強い。(I 大学・男性) ・民間からの天下りの教授は授業の組み立て方がひどく、とても学んでいるという実感がわかかなかった。経験談より、アカデミックな観光学の概要を学んだ方がましだと思った。(I 大学・女性) ・最初は興味本位で入った学生が多いと思うので、授業に不満を持ちたりほかのことに意識が行ってしまうなどしてモチベーションを高く保つことが難しいと思う。授業やカリキュラムはもちろんのことだが、先生やキャリア支援センターと直接話ができる場や、情報提供など、手厚いサポートが必要だと思う。楽しいことを求めて入学してくる学生が多すぎだと思う。多少敷居を高くしたり、授業のペースを上げたりしたほうが、学生の意欲を促進したり、焦燥感を駆り立てて集中力が増すのではないかなと思う。(I 大学・女性)
<ul style="list-style-type: none"> ・「観光」というものに正直興味を持てたかどうか疑問。最初(1年生の段階)に、旅行業界一般の話をされていたら、少しは印象がかわったかもしれないと思う。ただ、個人的には「観光」そのものに興味を持つ必要がない学問でもあると思うので、様々な学問体系に触れられたこと、それぞれの専門家(文学、建築、経営など)に出会えたことに関してはとても満足している。(M 大学・女性) ・分野に特化した教育を受けることが出来て有意義だった。しかし講義内容がただの論理や一般論に徹したのも多く、卒業後に企業の即戦力になれるような人間になれたかという点、疑問が残る。(M 大学・女性) ・他の学部にもいえることで、学生自身の意識にもよるのだと思うが、自分で考え、発信するという大学生ならではの学習形態があまり整っていないように思う。また、何を学んでいるのか、何を学びたいのかわからなくなることが多々あった。(M 大学・女性) ・集客や販売促進などの方法や魅力の伝え方など実践的なことを学びたかった。(M 大学・女性) ・授業でさんざん教授の研究成果を聞いて、そこから何を学べばよいのかわからない。研究結果の発表の場(こういう調査をした結果～だったの～のような)、学生が受動的な講義が多い気がした。(M 大学・男性) ・大学で教えるのはあくまで研究を主にしている教授が大半なので、講義によっては具体例もなく、理論ばかりになってしまい、勿体無いと感じてしまうものがありました。また、ゼミに入ったり、自身で軸を決めないと、専門性を持ちにくいカリキュラムなので、改善が必要かもしれません。(M 大学・女性)

その他
<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興を伴う観光は、一部で「やることに価値がある」と考えがちで、行わないよりは素晴らしいが、効果を検証しないままになっている例が多い。マーケティングなどによる知識も必要ではないかなと考える。(F 大学・男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・国はもっと、地域の観光振興について真剣について考えるべきだ。(F 大学・男性)
<ul style="list-style-type: none"> ・国外の観光政策(特にアジア周辺国)のインプットは弱い。他の理系学科と比べ、演習や実験の量が少ない。研究の蓄積が少なく、演習や卒論を通して本当に学んだことの質や量がやや小さい。(N 大学・男性)

3.資料

3-1 設問全文掲載

観光系学部・学科4年生対象 「観光教育と進路選択についてのアンケート」

アンケートご協力をお願い

日本学生観光連盟では、観光系学生を取り巻く環境を総合的に調査・発信する「これからの観光教育学生会議」を発足しました。その活動の一環として、このたび標記のアンケート調査を実施します。10以上の大学の観光系学部・学科生を対象に、大学横断的な公開調査を行うのは今回が初めてです。

より良い学習環境づくりを行うには、私たちも含め、実際に4年間の観光教育を受けた皆さん自身の声を発信・反映させることがとても重要だと考えます。大学教育に対して思うこと、観光系学生だからこそ進路選択で悩んだことなど、ぜひ皆さんの意見・経験談をお聞かせください。

卒論が佳境に入る忙しい時期ではありますが、どうぞご協力よろしく願いいたします。

【対象者】

国内の観光系学部・学科に所属する大学4年生（日本人学生）

【回答期間】

2013年9月23日(月)～10月27日(日)

【特記事項】

- ・所要時間は10分ほどです。
- ・このアンケートはTopic1、Topic2の2部構成です。
- ・このアンケートは無記名です。調査の目的上、就職先業界等の質問も含まれますが、個人が特定されることはありません。
- ・回答中は、ブラウザの「戻る」ボタンは押さないでください。それまでの回答が消えてしまうことがあります。

【結果の公表・活用方法】

- ・結果は本会議サイト上で公開するほか、各観光系学部・学科、観光教育学会、観光業界団体等に向けて配信いたします。

この調査に関するお問い合わせは

これからの観光教育学生会議

アドレス kankokaigi@gmail.com まで

フェイスシート

●ご自身の所属と性別をご記入ください。

- ・大学名
- ・学部 / 学科
- ・男性性 / 女性性

●現時点で、卒業後の進路が決まっていますか。

進路が決まっている方は Topic1 へ、決まっていない方は Topic2 へ移動します。

はい→Topic1 へ

いいえ→Topic2 へ

Topic1 観光系学生の就職活動

Topic1 では、皆さんの就職活動経験についてお聞きします。回答によって質問項目が分かれていきますのでご注意ください。

※表記について※

- ・直接的に観光事業に関わる企業を「観光関連企業」、それ以外の業界の企業を「その他企業」と表記しています。
- ・観光系学部・学科に所属する学生を「観光系学生」、それ以外の学部学科に所属する学生を「一般学生」と表記しています。

(1)

●就職先企業にあてはまるものをお選びください。(単一回答)

【観光関連企業】

旅行 / ホテル / 旅館 / 航空 / 空港※ / 鉄道 / バス / クルーズ / テーマパーク / コンベンション / その他 (自由回答) →(2-1) へ

【その他企業】

金融・保険 / 商社 / 小売 / 飲食 / 不動産・建設 / 製造 / 物流 / 情報・通信 / 広告・放送・出版 / 人材 / ブライダル / 医療・福祉・介護 / 教育 / その他 (自由回答) →(2-2) へ

【公務員】

国家公務員 I 種 / 国家公務員 II 種 / 教員 / その他 (自由回答) →(2-3) へ

【大学院進学】 →Topic2 へ

【その他 (自由回答)】 →Topic2 へ

(2-1)

「観光関連企業」に就職すると答えた方にお聞きします。

●就職活動中は、観光関連企業が第一志望でしたか。(単一回答)

- ・第一志望だった、かつ、その他企業は一社も受けなかった→(2-1-1) へ
- ・第一志望だった、ただし、その他企業も受けていた→(2-1-1) へ
- ・第一志望ではなかった、しかし、その他企業の選考に通らなかったため観光関連企業へ行くことになった→(4) へ
- ・その他 (自由回答) →(4) へ

(2-1-1)

●観光関連企業を第一志望とした理由は何でしょうか。(複数回答可)

- ・観光関連企業で、携わりたい事業や、やってみたい仕事があったから
- ・観光系学部・学科出身のため、志望動機を明確に言えると思ったから
- ・観光関連企業のインターンシップに参加し、志望度が高まったから
- ・観光関連企業でのアルバイト経験があるから
- ・その他 (自由回答)

●前問で、「携わりたい事業や、やってみたい仕事があったから」を選択した方は、差支えなければ具体的な内容を教えてください。(例：旅行会社で教育旅行を担当してみたいと思った、など)

(2-2)

「その他企業」に就職すると答えた方にお聞きします。

●就職活動中は、その他企業が第一志望でしたか。(単一回答)

- ・第一志望だった、かつ、観光関連企業は一社も受けなかった→(2-2-1) へ

- ・第一志望だった、ただし、観光関連企業も受けていた→(2-2-1)へ
- ・第一志望ではなかった、しかし、観光関連企業の選考に通らなかったためその他企業に行くことになった→(3)へ
- ・その他（自由回答）→(3)へ

(2-2-1)

●観光関連企業を一社も受けなかった、または、受けたが第一志望群ではなかった方にお聞きします。その理由は何でしょうか。（複数回答可）

- ・観光関連業界を目指して現在の学部・学科に入学したわけではないから
- ・いろいろな企業を知るうちに、観光関連以外の仕事に興味に移ったから
- ・観光関連企業でインターンを経験し、自分には向いてないと思ったから
- ・観光は、これからも消費者（客）として楽しみたいと思ったから
- ・観光関連企業は、給与水準が低いイメージがあるから
- ・観光関連企業は、労働時間が長いイメージがあるから
- ・観光関連企業の、離職率が気になるから
- ・その他企業にも、観光学は活かせると思ったから

・その他（自由回答）
→(3)へ

●前問で、「その他企業にも、観光学は活かせると思ったから」を選択した方にお聞きします。差支えなければ、具体的な内容をお聞かせください。

（例：金融業界でホテルの資産運用をしてみたいと思った、など）（自由回答）

(2-3)

●「公務員」と答えた方にお聞きします。観光系学部・学科出身であることは、あなたが公務員を志望するに至ったことと関係がありますか。（観光学を専攻したことで、自分の地元の観光行政に携わりたいと思った、など）

とても関係がある / まあ関係がある / あまり関係がない / まったく関係がない

●公務員を志望した理由を具体的に教えてください。（自由回答）
→(6)へ

(3) 就職活動において、観光系学部・学科での専攻内容との関連性を重視しました

か。（単一回答）

とても重視した / 少しは重視した / あまり重視しなかった / まったく重視しなかった

その理由を教えてください。（自由回答）

(4) あなたはインターンシップに参加したことがありますか。

- ・観光関連企業のインターンシップに参加した
- ・その他企業のインターンシップに参加した
- ・参加しなかった

(5) 就職活動中、参考にした求人情報は何ですか。（複数回答可）

※就職活動全般の情報収集ではなく、求人情報の載っているものに絞ってお答えください。

リクナビ / マイナビ / 日経就職ナビ / en japan / ダイヤモンド就活ナビ / 学情ナビ / キャリアセンターに届く求人 / ゼミの教授の紹介 / 親類の紹介 / ハローワーク / その他（自由回答）

(6)

●就職活動の経験から、ご自身の考えに当てはまる場所を選択してください。

- ・観光関連企業を受けた時、大学で学んできた業界知識の豊富さが、アピールになった
- ・観光関連企業を受けた時、業界への熱意が、アピールになった
- ・海外旅行経験の豊富さに表れる行動力や元気の良さが、アピールになった
- ・語学力の高さが、アピールになった
- ・ホスピタリティの手法を学んできたことが、アピールになった

とてもそう思う/まあそう思う/あまりそう思わない/まったくそう思わない/（該当なし）

※設問文の経験がない場合は（該当なし）を選択してください。

●前問の選択肢を含め、観光学を専攻した学生としてアピールしていたことがあれば教えてください。

(7) 就職活動の経験から、ご自身の考えに当てはまる場所を選択してください。（複数回答可）

- ・企業選びについて、大手～中小企業までバランス良く探していた
- ・企業選びについて、企業の知名度には拘りがなかった
- ・観光関連の大手企業は、一般学生も多数応募しているため、なかなか選考を通過できない
- ・観光関連の中小企業を探したくても、情報が少ない、探し方が分からない
- ・面接で、観光系学部・学科で何を勉強してきたか、的確に答えられない
- ・面接で、観光系学生というだけで、観光業界について熟知しているように捉えられる
- ・面接で、観光関連企業を受けているのに、観光学を専攻したことがアピールにならない
- ・その他企業への、観光学の活かし方が分からない
- ・その他企業を受ける場合、「観光学を専攻したのに、なぜ当社を志望したのか」という質問に納得性のある説明ができない
- ・その他企業に就職することになった場合、ゼミや友人の中で後ろめたさを感じる

とてもそう思う/まあそう思う/あまりそう思わない/まったくそう思わない/(該当なし)

●当時面接で聞かれて困ったこと、就職活動全体で悩んだことなどがあれば教えてください。(自由回答)

(8) 現在の一般的な選考では、大学での専攻内容・成績を評価基準として重視する企業は少数です。この点について、あなたは大学で勉強してきたことも評価の対象にしてほしいと思いますか。

とても評価してほしい / できれば評価してほしい / あまり評価してほしくない / 全く評価してほしくない

その理由を教えてください。

(9) ご自身の就職活動の結果に、どの程度満足していますか。
とても満足 / どちらかと言えば満足 / どちらかと言えば不満 / とても不満

[Topic2 へ続く→](#)

Topic2 観光系学部・学科での4年間

Topic2では、皆さんの大学生活や、観光教育に対する評価について質問していきます。忌憚のないご意見をお聞かせください。

(1)現在の学部・学科を選択した理由は何でしたか。最も当てはまるものを最大3つまで選択してください。

【積極的理由】

- ・旅行業界に興味があったから
- ・航空業界に興味があったから
- ・ホテル業界に興味があったから
- ・旅行が好きだったから
- ・珍しい学部・学科だったから
- ・地域活性化に興味があったから
- ・国際感覚が身に付きそうだったから
- ・海外研修が充実していたから
- ・留学制度が整っていたから
- ・就職支援が充実していたから
- ・何となく楽しそうだったから
- ・その他（自由回答）

【消極的理由】

- ・滑り止めで仕方なく入った
- ・学部・学科はどこでもよかった、大学そのものに魅かれた
- ・親の勧め
- ・その他（自由回答）

(2)観光学の範囲内で、ご自身の「専門分野」と呼べるものはありますか。（単一回答）

（専門分野＝ゼミでの研究内容や、自分なりに講義を選択して特に深く学んだもの）

- ・経営学 / 経済学 / 社会学 / 心理学 / 文化人類学 / 地理学 / 歴史学 / 地域振興 / 都市計画 / まちづくり / 景観デザイン / レジャーレクリエーション / サービス / ホスピタリティ / その他（自由回答）
- ・専門と呼べるものはない

(3)旅行経験についてお聞きます。

- 大学在学中、国内旅行に出かけた回数を教えてください。

_____回（半角数字）

- 大学在学中、海外旅行に出かけた回数を教えてください。

_____回（半角数字）

※観光が主目的で、個人手配の旅行に限ります。留学・研修・ボランティア等は含まずにお答えください。家族旅行・友人旅行・一人旅等、形態は問いません。

- 一回以上出かけた方は、具体的国名を教えてください。（例：アメリカ、韓国、ベトナム、・・・）

(4)観光系学部・学科に入って良かったと思うことはありますか。共感するものを選択してください。（複数回答）

- ・旅行経験が増えた、旅行の仕方が分かった
- ・一緒に旅行に行く相手を見つけやすい
- ・旅好きで明るい性格の学生が多い、学部の雰囲気が良い
- ・観光研究を通して地域社会との関わりを持つことができる
- ・他学部に比べて面白い・斬新なテーマの講義が多い
- ・観光関連業界のゲストスピーカーの話聞く機会が豊富
- ・フィールドワークや海外研修など、国内外の現場に出る学習機会が豊富
- ・英語・第二外国語の講義が豊富に用意されている
- ・目指す業界が絞られているため就職活動を始めやすい
- ・観光関連企業の選考を通過しやすい
- ・観光系学部・学科に入らなければ、今決まっている就職先を選ぶことはなかった
- ・観光業界のマイナス面についても知っているの、憧れだけで志望せずに済んだ
- ・その他（自由回答）
- ・良かったと思うことはない

(5)反対に、ご自身の学部・学科に対して、不満に思うことはありますか。共感するものを選択してください。（複数回答可）

- ・講義内容について、何を学ばせたいのか、目的が分からない
- ・講義内容について、実社会で何の役に立つのか分からない
- ・講義内容について、ネットで調べれば分かるような内容が多い

- ・ 講義内容について、同じような話が多い、個々の講義に重複がある、
- ・ 講義内容について、シラバスと一致しない、受講してみると期待外れなことが多い
- ・ 講義内容について、研究対象企業が、大手有名企業に偏っている
- ・ 講義内容について、ゲストスピーカーが、大手有名企業に偏っている
- ・ 業界系の講義※について、ゲストスピーカーの回数が多すぎる
- ・ 業界系の講義について、会社の事業紹介に留まっている
- ・ 業界系の講義について、実業界出身の教授による経験談が多い
- ・ 業界系の講義について、何を教えるにも就活を意識しているように感じる
- ・ 講義環境について、周りの学生の私語が多い
- ・ ゼミについて、希望のゼミに入れるかどうかで就職が大きく左右される
- ・ ゼミについて、教員の話聞くだけで終わってしまうなど、研究の充実感がない
- ・ その他（自由回答）
- ・ 不満に思うことはない

※「旅行産業論」「航空産業論」といったタイトルの講義

(6) 4年間で印象に残っている講義、面白かった講義があれば教えてください。またその理由は何でしょうか。

- ・ 自由回答
- ・ 全く浮かばない

(7) 観光系学部・学科で、こういう講義があったらいい、こういう講義こそ大学で教える意味がある、と思うことがあれば教えてください。

- ・ 自由回答
- ・ 全く浮かばない

(8) ご自身が在籍する観光系学部・学科を、大学受験を控える高校3年生にどの程度勧めたいですか。

強く勧めたい / まあまあ勧めたい / あまり勧めたくない / まったく勧めたくない

その理由を教えてください。

(9) 最後に、ご自身の受けてきた観光教育に対して感じることを、どんなことでも結構ですでお書きください。（カリキュラム構成、講義内容など）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

3-2 調査協力大学一覧

(大学名五十音順)

跡見学園女子大学 マネジメント学部観光マネジメント学科

桜美林大学 ビジネスマネジメント学群

杏林大学 外国語学部観光交流文化学科

神戸夙川学院大学 観光文化学部

鈴鹿国際大学 国際人間学部観光学科

高崎経済大学 地域政策学部

玉川大学 経営学部観光経営学科

帝京大学 経済学部観光経営学科

東海大学 観光学部

文教大学 国際学部国際観光学科

平安女学院大学 国際観光学部

横浜商科大学 商学部貿易・観光学科

立教大学 観光学部

以上13大学

ご協力いただいた先生方、4年生の皆さん、ありがとうございました。



これからの観光教育学生会議
<http://kankokaigi.wix.com/home>
日本学生観光連盟
<http://gakukanren.m40.coreserver.jp/>